

平成29年度
九州地方環境パートナーシップオフィス
運営業務実施報告書
(平成29年4月～平成30年3月)

特定非営利活動法人 宮崎文化本舗
一般社団法人 九州環境地域づくり

もくじ

1. 業務の概要	3
2. 業務の実施状況	3
(1) 運営委員会と連携した業務の推進	3
(2) ニーズに基づいた発信強化	10
(3) 多様な協働取組の促進	18
(4) 地域ぐるみの ESD 推進	31
(5) 外部資金の活用による協働促進	49
(6) EPO 九州の維持管理	58

本報告書は、平成29年4月～平成30年3月（4月1日から3月31日）の九州地方環境パートナーシップオフィスの運営業務内容について報告するものである。

1. 業務の概要

年間計画に基づき、下記業務を行った。

- (1) 運営委員会と連携した業務の推進
- (2) ニーズに基づいた発信強化
- (3) 多様な協働取組の促進
- (4) 地域ぐるみのESD推進
- (5) 九州地方ESD活動支援センターの運営
- (6) EPO九州の維持管理

2. 業務の実施状況

(1) 運営委員会と連携した業務の推進

EPO九州の活動について、環境パートナーシップに関与するNPO、企業、行政、メディア、有識者等を運営委員とし、助言ならびに取組に応じた協力・連携を得て、円滑かつ効果的な運営に取り組む。

また、九州地方ESD活動支援センターの運営をEPO九州が担うことから、分科会として企画運営委員会を設置した。

① 運営委員会の開催

運営委員会は、EPO九州の事業方針、事業計画について協議を行うとともに、九州・沖縄地域内の環境パートナーシップに係る情報交換や実態の把握とそれらをとおした課題の洗い出しを行い、EPO九州の運営や事業実施についての助言を行う。本年度は2回開催した。運営委員については、地域バランスを考慮し別途、規程に従い定めた。開催地は運営委員等と連携し、調整の上決定した。

【運営委員会 開催予定】

	開催時期	協議内容
第1回	6月15日	第4期運営方針、平成29年度の運営計画についての助言ならびに、個別事業への連携について。
第2回	2月20日	平成29年度の事業進捗・報告、次年度運営指針について。

【平成29年度 運営委員名簿】

	分野	県	氏名	所属
1	学識経験者	熊本県	篠原 亮太	熊本県立大学 名誉教授 熊本県環境センター 館長
2	学識経験者	福岡県	石丸 哲史	福岡教育大学社会科教育講座 教授
3	地方公共団体	大分県	梶原 浩	大分県生活環境部 うつくし作戦推進課長
4	企業・ 環境ビジネス	福岡県	文野 唯史	一般社団法人九州経済連合会 産業振興部長
5	メディア	宮崎県	川野 武文	株式会社宮崎放送 ラジオ局長
6	NPO・中間支援	長崎県	大向 あぐり	雲仙諏訪の池ビジターセンター
7	NPO・中間支援	熊本県	森山 亜矢子	一般社団法人環不知火プランニン グ 代表理事
8	NPO・中間支援	鹿児島県	浜本 奈鼓	NPO 法人くすの木自然館 代表理事
9	NPO・中間支援	沖縄県	岸信 朋	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会 環境課係長

第1回運営委員会

期 日：平成29年6月15日（木）

会 場：環境省九州地方環境事務所（熊本市）

第4期運営方針、平成29年度の運営計画、および地方ESD活動支援センター運営業務等について、幅広い意見交換ができるよう運営委員を選定し、運営委員会を開催した。

詳細は資料の第1回運営委員会議事録要旨を参照。



第1回運営委員会の様子

第2回運営委員会開催

期 日：平成30年2月20日（火）

会 場：福岡合同庁舎 本館8階（福岡市）

年間の運営業務や地方ESDセンターの活動について、取組の成果等を報告するとともに、評価委員会に向けた取組や提案、および次年度の運営方針等に係る助言をいただいた。

詳細は資料の第2回運営委員会議事録要旨を参照。



第2回運営委員会の様子

② 運営委員との連携

年間をとおして取組や企画に応じて運営委員との連携を行った。また、第2回運営委員会の開催にあたり、運営委員と企画運営委員がそれぞれの事業に対する認識を共有できるよう、企画運営委員会へのオブザーバー出席を呼びかけた。

連携内容

事業名等	連携内容・成果
ESD 推進拠点支援事業	拠点支援事業の3拠点のうち2拠点において、運営委員がプラットフォームに参画・連携し取組を進めた。
協働取組フォーラム	フォーラムの開催にあたり、企業関係者への周知・参加を図るため、会員団体への広報協力を得た。
ビジターセンター意見交換	ビジターセンターが求めている情報の集約や意見交換での議題の提案等をふまえたことで、情報共有と連携を効果的に図る場づくりができた。
ESD 活動ネットワークの形成	福岡県立城南高校からの相談を受け、運営委員を紹介するとともに、ESD 講話会の企画をサポートし、ESD 推進のためのネットワークづくりを支援した。
自然体験施設ネットワーク交流会	自治体が管理するビジターセンターや民間の体験施設との情報交換を進めるとともに、ESD 推進拠点の登録を呼びかけた。
九州地方 ESD センター運営	企画運営委員としての参画と助言。また、ESD 推進拠点の登録呼びかけを行い、登録の意向や登録申込を得た。

① 評価委員会への対応

評価委員会への出席対応

期 日：平成30年3月1日（木）

会 場：熊本地方合同庁舎 九州地方環境事務所会議室

評価委員に対して1年間の運営業務について、基本業務、全国事業、ESDセンター事業の項目ごとに重点的に実施した事項を中心に説明し、質疑対応を行った。全国事業については、一定の評価をいただき、ESDセンター事業については、実施団体・拠点候補先へのさらなる働きかけを求められた。また、基本業務については、NPO情報の充実や一般市民への情報発信の強化等の指摘があり、メディアを通じた発信等の強化が必要との評価をいただいた。

評価委員会での指摘事項については、次年度の事業計画等での対応を整理する。

② 全国 EPO ネットワークとの連携

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）ならびに地方 EPO と連携し、全国事業等（「平成 29 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」及び「ESD 推進拠点支援事業」等）の推進を円滑に行う。また、全国 EPO 連絡会議等に出席し、情報共有、事業連携および運営強化に努める。

【全国 EPO 連絡会議 開催時期】

	開催時期	協議内容
第 1 回	6 月 7 日	平成 29 年度の全国事業、インターンシップ、ESD センター対応等について協議。
第 2 回	10 月 12 日 ～13 日	中部エリアでの開催。愛知県名古屋市での連絡会議。および「四日市公害と環境未来館」への視察と意見交換。
第 3 回	1 月 16 日	事業成果の共有、次年度に向けた意見交換等。

○第 1 回全国 EPO 連絡会議

期 日：平成 29 年 6 月 7 日（水）～8 日（木）

会 場：GEOC（東京都渋谷区）

全国の地方 EPO および地方環境事務所が集まり、今年度の事業について情報共有し、今後の全国 EPO ネットワークとしての取組（協働取組加速化事業、ESD 拠点支援事業、EPO ネットワーク事業等）について意見交換を行った。



協働取組加速化事業については、各 EPO より採択案件の紹介および支援ポイントの説明を行い全国における本年度の事業計画、協働ハンドブック vol.3・政策協働の手引きについて、事業 5 カ年の振り返りについて意見交換を行った。

ESD 拠点支援事業については、各 EPO の支援拠点での取り組みを共有するとともに、月次報告の取り扱いなどについて方針の確認を行った。

この他、地球環境基金の担当者より、連携の方法が今年は変わる可能性があること、EPO スタッフのインターンシッププログラムについてや「福島再生 現地体験プログラム ふくしまみちさがし」について、担当から概要と参加募集の説明があった。

また、連絡会議にあわせて、平成 29 年度境省環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援事業第 1 回アドバイザー・ボード会議が行われ、各地方 EPO もオブザーバー参加をした（詳細は ESD 拠点支援事業の項を参照）。

○福島再生 現地体験プログラム「ふくしまみちさがし」への参加

期 日：平成 29 年 7 月 12 日（水）～14 日（金）
 会 場：除染情報プラザ（福島市）、および県内各所
 参加者：15 名

福島地域の環境再生に取り組む除染プラザより、地球環境パートナーシッププラザを介して、地方 EPO 担当者に向けて現地体験プログラムへの参加案内がなされた。

これを受けて、プログラムに 1 名参加し復興に取り組む地域の状況について把握した。今後の取組については、除染プラザより GEOC 等へ連携提案をふまえて対応する。

主な視察スケジュール

月日、場所	主な内容
7 月 12 日 福島市、飯舘村	除染情報プラザ見学、事前研修 ※移動日のため、同日夜より参加。
7 月 13 日 飯舘村、南相馬市	福島市 たかはし果樹園 飯舘村 仮置場等 南相馬市原町区 トウモロコシ生産農地 南相馬市小高区「双葉屋旅館」 双葉町・大熊町中間貯蔵施設予定地（車窓のみ） 川内村「共同復興推進支援センター」
7 月 14 日 川内村、郡山市、福島市	三春町「薪商はざるね」 郡山市「酒蔵・仁井田本家」 郡山市環境省県中・県南支所



農業再生の取組として飼料用作物の試験事業についての説明



薪ストーブ利用者向けの「まき宅配ビジネス」についての視察

○環境調査研修所研修 環境パートナーシップ研修への協力

期 日：平成 29 年 10 月 5 日（木）～6 日（金）
 会 場：環境調査研修所（埼玉県所沢市）
 出席者：50 名（自治体職員）

環境省環境調査研修所による環境パートナーシップ研修に講師として出席して、地方 EPO の取組等を紹介するとともに、協働事例等をもとにした自治体との連携課題等について話題提供を行った。また、まとめのワークショップ等においてコメントを行った。

○第2回全国 EPO 連絡会議

期 日：平成29年10月12日（木）

会 場：ウインクあいち（愛知県名古屋市）

全国の8つのEPOと地方環境事務所が集まり、各地方EPOの今年度の事業について情報共有し、協働取組事業、ESD実践拠点支援事業、および開設されたESD地方センターについて意見交換を行った。

協働取組加速化事業について、ハンドブック・手引きについて進捗状況・方向性・今後のスケジュールの共有を行った。またESD実践拠点支援事業に関し、拠点別の類型手法について検討を行った。

後継事業については、課題の同時解決を目的とした事業が提案された。予算や対象の拡大についても意見交換が行われた。



○EPO 受託団体連絡会議

期 日：平成29年10月13日（金）

会 場：ウインクあいち（愛知県名古屋市）

全国の8つのEPO受託団体が集まり、意見交換を行った。

主な内容として、今年度の協働取組、ESD拠点支援の事業成果の創出方向性やESD活動支援センターとの連携実務について意見交換を行った。

○エクスカーショ

期 日：平成29年10月13日（金）・14日（土）

会 場：四日市公害と環境未来館（三重県四日市市）

および、ウインクあいち（愛知県名古屋市）

「四日市市の市民協働を事例に～自治体の協働のありようをまなびあう」として企画された今回のエクスカーションでは、四日市市石油コンビナートによる公害の歴史と、産業発展と環境保全を両立させたまちづくりのために、どのような市民協働が進んだかについて、四日市市職員や有識者、協働コーディネーターによる取組発表が行われた。

その後名古屋市に会場を移し、「マルチステークホルダーダイアログ2017」が2日間に渡り実施され、中部地域の協働取組支援体制構築、多彩なステークホルダー間のマッチング促進のための場となった。EPO中部が注力してきた協働取組加速化事業の成果報告、協働コーディネーター育成の成果についての意見交換が行われた。



四日市公害と環境未来館の見学



マルチステークホルダーダイアログ

○環境教育担当者会議

期 日：平成 29 年 11 月 17 日（金）

会 場：スタンダード会議室虎ノ門ヒルズ（東京都港区）

EPO 事業に資するため、平成 29 年度地方公共団体環境教育担当者会議へのオブザーバー出席を行った。国の環境教育や学習施策、および環境教育等促進法の施行状況等の説明が行われた。

○EPO スタッフ・インターンシップ・プログラムの受入れ

EPO スタッフのスキルアップと EPO ネットワークの強化・充実を目的とするインターンシップ（主催 GEOC）について、今年度は EPO 九州でインターンの受入れを行うこととなり、関東 EPO より高橋朝美氏が参加した。インターンシップでは、協働取組の第 2 回連絡会や協働取組フォーラムに参加するとともに、ビジターセンター意見交換会のワークショップでは、積極的に議論に参加し、関東での取組や事例を紹介してもらい、貴重な相互参照の機会となった。

主なスケジュール

月日、場所	主な内容
12 月 13 日 熊本市	インターンシップ受入れ、オリエンテーション
12 月 14 日 福岡市	加速化事業第 2 回連絡会 協働取組フォーラム
12 月 15 日 熊本市、益城町等	熊本地震の被災地域視察
12 月 17 日 水俣市	くまもとエコ・ユースワークショップ
12 月 18 日 鹿児島県始良市	ビジターセンター意見交換会
12 月 19 日 鹿児島県始良市	桜島ビジターセンター視察

○第 3 回全国 EPO 連絡会議

期 日：平成 30 年 1 月 16 日（火）

会 場：GEOC（東京都渋谷区）

全国の 8 つの EPO と地方環境事務所が集まり、協働取組事業や ESD 拠点支援事等の情報共有を行うとともに、次年度の同時解決事業や ESD 推進等の業務について意見交換を行った。とくに、協働取組の後継事業となる同時解決事業について、SDGs を活用した取組となることから、全国事業としてのゴールや成果の設定および留意点等について協議した。



○EPO 受託団体連絡会議

期 日：平成 30 年 1 月 16 日（火）

会 場：GEOC（東京都渋谷区）

全国の 8 つの EPO 受託団体が集まり、次年度の全国事業を中心に意見交換を行った。同時解決事業については、案件の掘り起こしや目標設定、想定される成果は何か等について、各地域の状況を共有するとともに、意見交換を行った。

(2) ニーズに基づいた発信強化

EPO九州からの発信強化にあたり、情報発信に関するニーズの把握をヒアリングやアンケートをとおして行い、発信活動に活用する。

主な発信対象として、地域活性化、協働取組、ESD推進に関心のある自治体やマスコミ、事業者、団体等の各主体を想定し、次の成果目標を設定の上、これに取り組んだ。

目標

- ・自治体関係者や読み手のニーズを把握し、独自コンテンツを充実させることで、発信を強化させる。

成果目標

- ・自治体関係者への発信を強化する（8県、20市町村担当者の登録）
- ・対話型コンテンツの発信（5件程度）
- ・地方センターメルマガの発行（VCメルマガのバージョンアップ）

成果目標に対する達成状況

1. 関係ビジターセンターにメールマガジン ビジターセンター版への協力継続をお願いし、関係ビジターセンターの情報を集約・発信した。各センターの取組紹介を充実させるなど、発信面での連携が深まった。
2. 新規の環境系活動団体から情報を提供いただき、発信内容を充実させた。
3. ウェブサイトの事業紹介を充実させ、発信強化・閲覧数や滞在時間アップに努めた。
4. 団体訪問などの機会を活かして、関係者へのインタビューを5回実施し、ウェブサイト記事として掲載し、対話型コンテンツの発信を強化した。
5. メルマガの情報発信力を強化するため、メルマガ登録者などを中心にニーズに係るアンケート調査を実施した。今後、アンケート結果をもとに、メルマガの構成や掲載内容等のブラッシュアップを図った。

① ニーズの把握

情報発信の強化にあたり、協働取組やESD推進に関するヒアリング等にあわせて、EPO九州から発信される情報等への期待やニーズ把握に努めた。メルマガを購読する自治体担当者からは、環境省関連や地域での協働取組の情報源として活用しているとの反応をいただいた。

また、メルマガ読者に向けたアンケート等を行い、掲載コンテンツに活用した。

把握された情報ニーズ

- ・民間団体支援に関する情報（行政からの支援にないサポート）
- ・「情報」「人」「組織」「活動」「学び」がつながるための情報

引き続きヒアリングやインタビュー等の機会をとおして、情報ニーズの把握を進めるとともに、メルマガ読者に向けたアンケートについて、購読者はもとより、ウェブやSNSをとおして情報発信についてのニーズ把握について第3四半期以降に行い、掲載コンテンツへの活用を図った。

この他、ユースと連携した政策提案ワークショップの場などにおいて、環境活動情報へ

の関心やアクセス手法についてヒアリング等を行った。

インタビュー等においても EPO からの情報発信について提案をいただき、「情報」「人」「組織」「活動」「学び」がつながるための情報発信を行うために、情報発信へのニーズを探るアンケートをメルマガ読者に向けて実施した。

また、ユースを対象としたワークショップの中で、若い世代の関心の方向を探り、EPO 九州の活動展開を発信する手法についてヒアリングを行った。

ヒアリング実施状況

月日、場所	ヒアリング対象	ヒアリング成果
12月17日 熊本県環境センター	熊本大学 法学部学生	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する情報だけでなく、観光や地域づくりなどの楽しめる情報と合わさったものが大事。 ・近い人から紹介されることで、情報に関心を持つことができる。 ・活動の現場には、一人では行きにくい。友達と参加できるような場があると関心も高まる。

○アンケートの実施

平成 29 年 12 月から平成 30 年 3 月にかけて、メールマガジンの内容等についてのインターネット上のアンケートを実施し、終了までに 18 件の回答が寄せられた。

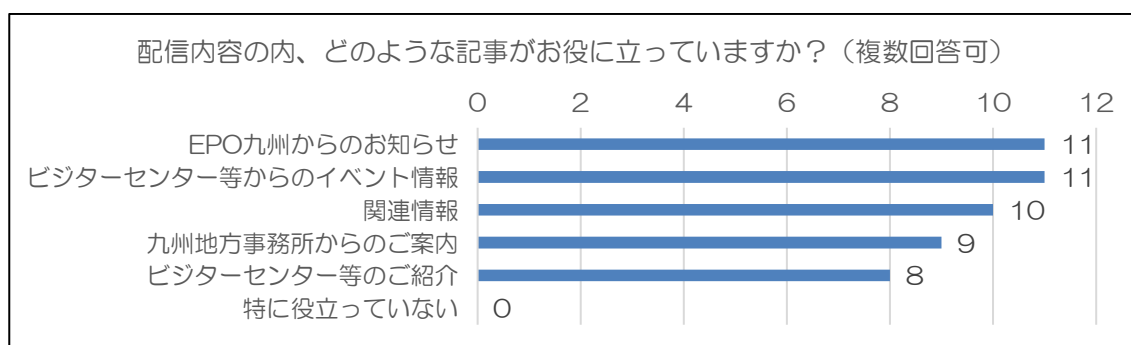
回答者の属性は主に九州・沖縄各県在住者で、その他関東、東海、近畿などからも回答があった。所属は NPO 法人等非営利団体、次いで自治体職員であった。

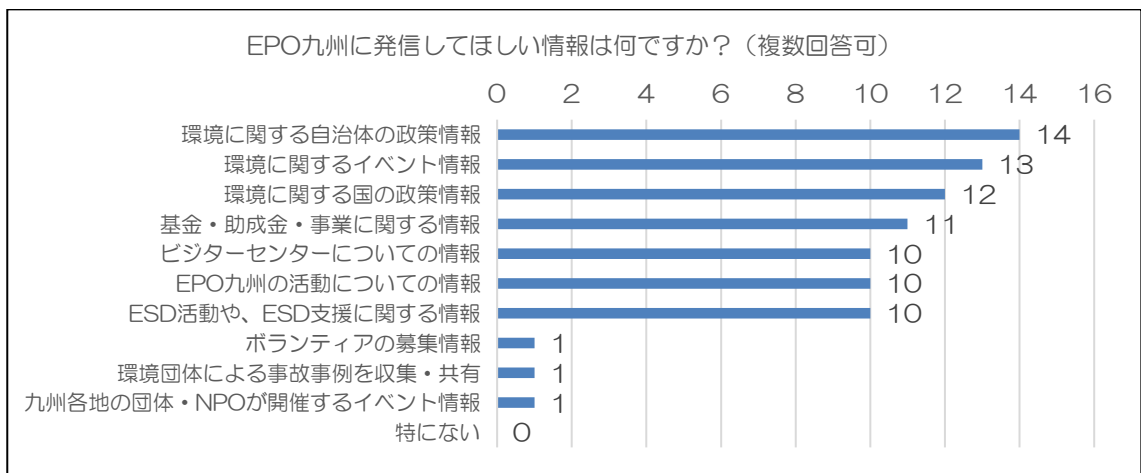
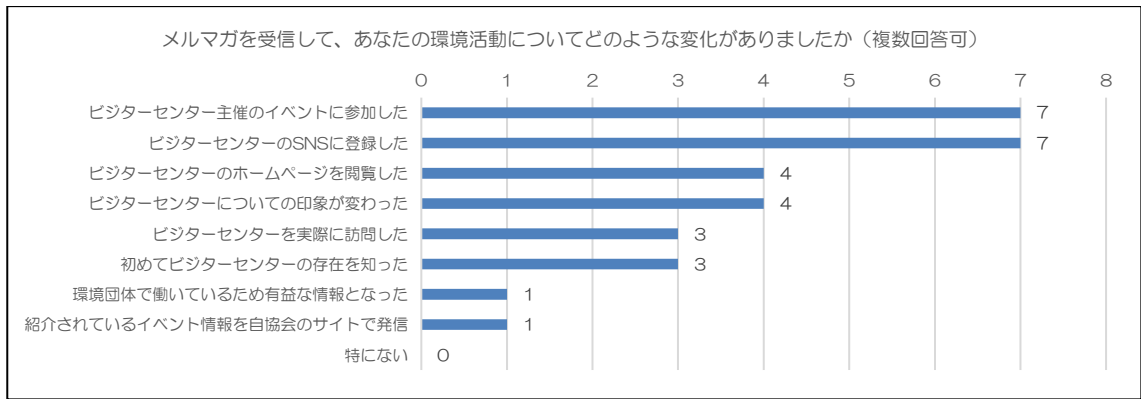
配信内容のうち、役立っているものとして「EPO 九州からのお知らせ」「ビジターセンター等からのイベント情報」が挙げられた。

メルマガ購読後の環境活動の変化については、「ビジターセンター主催のイベントに参加した」「ビジターセンターの SNS に登録した」との回答が多かった。

EPO 九州からの発信に期待する情報として、環境に関する政策情報やイベント情報、基金や助成金の情報についての要望が高い結果となった。

これらの結果を踏まえ、ニーズに沿った情報発信を行う。





アンケート結果から、国や自治体の環境政策、ビジターセンターを含むイベント情報へのニーズが把握され、発信コンテンツとしての充実を引き続き図っていきたい。

② インタビューによるコンテンツの創出

意見交換会などの機会を活かし、関係者へのインタビューを行い、ウェブサイト記事として掲載した（5件程度）。インタビューにあたっては、インタビュアー（聞き手）として、運営委員や関係者の協力を得て取り組む。EPOならびに九州地方センターが取り組む活動を多面的に伝える場としてインタビューを位置づけ、活動内容だけでなく、インタビュー相手と連携した発信強化につながるよう、選定した。

インタビュー結果については、EPO九州やESD活動支援センターのHPに掲載し、広く発信を行った。



沖縄でのインタビューの様子

○インタビュー実施状況

月日、場所	インタビュー対象	主なインタビュー項目
7月6日 名護市内	NPO 法人おきなわグリーンネットワーク 理事長 西原 隆 氏	赤土等流出対策をはじめたきっかけや事業をとおした対策活動の広がり等について
9月14日 大牟田市教育委員会	大牟田市教育委員会教育長 安田 昌則 氏	大牟田市が取り組むユネスコスクール活動のねらいや育成したい人物像等について
10月21日 大分市内	NPO 法人ABC 野外教育センター 代表理事 藤谷 将誉 氏	団体設立の経緯やグリーンギフトプロジェクトによる企業連携の取組など
11月1日 福岡市内	福岡教育大学 教授 石丸 哲史 氏	ESDの実践に係る要点やキャリア教育をふまえた学びの展開など。
12月3日 みやざきアートセンター	みやざきアートセンター 緒方 由紀子 氏	ESD 拠点支援事業に参加した経緯、人材育成の面でどのような力が培われているかなど

③ 環境パートナーシップ情報の発信

ホームページ・SNS、メールマガジン等を活用し、管内の環境パートナーシップ情報を次のとおり発信した。

○ホームページ・SNS等の活用

ウェブサイトのデザインを一部見直し、EPO九州の取組をよりわかりやすく伝える工夫を行った。

ホームページについて、EPO九州の取組が十分には伝わっていないとの指摘を受け、定例会議等での検討をふまえ、ウェブサイトのデザイン、レイアウト、事業紹介の記載・表記について見直しを行い改修した。

引き続き、イベント等の開催時には、活動の様子をフェイスブックで発信し、鮮度の高い情報の提供を行うとともに、インタビュー記事のホームページ掲載により、顔の見える活動紹介やコンテンツの充実を図った。

主催事業の内容レポート掲載や、九州・沖縄地域の環境パートナーシップ情報について積極的に発信を行った。メールマガジンバックナンバーや公開記事のタグ設定を活用し、閲覧者が知りたい情報を獲得できる工夫を行った。

フェイスブックにおいては、訪問した現地からの即応性のある情報投稿や、ワークショップの様態を投稿することで、鮮度ある情報提供の維持を図った。

○メールマガジンの発行

EPO九州および九州地方環境事務所の事業や取組を中心に、各種連携するプログラム等の周知や企画取組の広報に活用。毎月中旬と月末の2回配信。

「九州地方ESD活動支援センター」の開設を受け、中旬はビジターセンター・ESD活動支援センター版として配信。那覇自然環境事務所管轄の3センターからも、引き続き毎月記事をいただき、沖縄地域の情報が増加・充実した。

月末の通常版は、主にEPO九州と九州地方環境事務所からのお知らせを配信。

EPO九州、九州ESDセンターおよび九州地方環境事務所の事業や取組を中心に、各種連携するプログラム等の周知や企画取組の広報に活用。毎月中旬と月末の2回配信。

中旬はビジターセンター・九州地方ESD活動支援センター版として配信。那覇自然環境事務所管轄の3センターからも、引き続き毎月記事をいただき、活用していただいている。

月末の通常版は、主にEPO九州と九州地方環境事務所からのお知らせを配信した（ESD活動支援センターからの情報は、EPO九州からのお知らせとしてフォロー）。

メールマガジンの発行状況

- ・通常版発行
4月29日、5月31日、6月30日
7月29日、8月31日、9月30日
10月31日、11月30日、12月27日
1月31日、2月28日、3月30日
- ・ビジターセンター版発行
4月15日、5月16日、6月15日
7月15日、8月15日、9月15日
10月14日、11月15日、12月15日
1月16日、2月15日、3月15日

○情報発信の状況

ホームページ（HP）、フェイスブック（FB）、メールマガジン（メルマガ）での発信状況の概要は次の通りである。

ホームページでは定期的に行政情報などを確認し、九州・沖縄地区の環境パートナーシップ情報について積極的な発信を行った。フェイスブックでは、ESD 関連、協働取組、グリーンギフトプロジェクトの情報を中心に情報を発信した。メールマガジンでは、ビジターセンターと連携し、鮮度の高い情報収集を行うとともに、名刺交換等の機会をとおして、メルマガへの登録を呼びかけた。

12月末にメールマガジンの登録者を中心に、EPO九州の情報発信のニーズを探るアンケートを開始した。第4四半期では結果の分析と、発信への反映についての検討を行った。登録者の関心の方向性や、購読後のアクションの変化についてデータを収集することができた。

月	HP 投稿数	FB 投稿数	メルマガ発行数	メルマガ登録者数
4	7	5	2	694
5	11	3	2	
6	13	6	2	
7	1	8	2	706
8	7	1	2	
9	5	6	2	
10	2	12	2	676
11	4	16	2	
12	8	18	2	
1	7	12	2	678
2	7	22	2	
3	5	12	2	

○平成28年度ニュースレターの発送

平成28年度に発行したEPO九州ニュースレターを関係会合等で随時配布するとともに、関係各所へ発送した。また、環境課題に取り組む協働の場づくりに関する冊子も合わせて発送した。

送付先区別	箇所数
九州・沖縄管内のNPO・企業等団体	320
環境学習拠点	8
教育委員会教育センター	8
NPOセンター	64
ビジターセンター	10
EPO事業関係団体（地方EPO、委員等含む）	50

○平成29年度ニュースレターの発行

平成29年度の活動状況をまとめたニュースレター（年報）を発行するため、EPO九州の活動取組等、ストック性の高い情報を中心に編集し、発行を行った。

発行仕様 A4版16ページ（多色）

発行部数 3,000部

○マスコミ関係者登録推進、WEB対策強化

マスコミ関係者へのメールマガジン登録促進を目的に、九州・沖縄各県の新聞社、テレ

ビ局等の情報発信先リストを作成した。第4四半期ではこのリストを元にメルマガ登録促進活動のほか、プレスリリースを行い、マスコミ関係者との関係構築を図った。

ホームページに関しては、画面構成や記事のカテゴリ改善を開始し、新規記事の投稿を継続しEPO九州の活動や、環境パートナーシップに関わる事業の発信を行った。

「情報発信リリース候補一覧」については巻末に添付。

3月実施の「島しょ地域ESD交流会」においては、九州・沖縄の新聞社・テレビ局等の報道各社、並びに島しょ部支局、80社（本社・支局含む）に対し、フォーラム開催の周知とメルマガ登録促進案内を行った。

④リーフレット作成

九州地方ESD活動支援センターの開設を受け、EPO九州のリーフレットをセンター機能も加えた内容に修正し、制作した。



リーフレット（表面）



リーフレット（中面）

⑥各種会合等への参加・周知活動

○肥後水とみどりの愛護基金 環境講座の周知協力

第2回 平成29年10月6日 13:30~15:00

第3回 平成29年12月1日 13:30~15:00

会 場：肥後の里山ギャラリー（熊本市）

参加者：各回30名程度（主に熊本県内の一般市民）

公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金が主催する連続講座について周知協力を行った。阿蘇を主テーマにした環境講座が3回開催された。10月6日の第2回講座は「九州の野生生物と私たちの関わり」と題し、自然保護官より、阿蘇地域の希少動植物の紹介をはじめ九州での野生生物業務の取組、ラムサール条約の取組が紹介された。

12月1日の第3回講座は「阿蘇くじゅう国立公園の保護と利用の概要」のテーマで、同管理事務所長より、公園計画制度としての保護と利用の面から規制や事業が定められていること、規定や管理運営などが事例も交え紹介された。また、国立公園満喫プロジェクトでは、世界水準のナショナルパークを目指していることなどが紹介された。阿蘇においては草原景観を守るために更なるボランティアや募金が必要なことが説明された。参加者との質疑応答では、若手のボランティアの必要性が訴えられた。

○くまもと未来ネット 第2回SDGs学習会への参加

期 日：平成29年10月28日 13時30分~15時30分

会 場：味噌天神公民館（熊本市中央区）

参加者：11名

情報収集の一環として、NPO法人くまもと未来ネット（旧NPO法人環境ネットワークくまもと）主催による第2回SDGs学習会に参加し、地域でのSDGsに関する情報収集を進めた。現役の中学校教員による学校におけるESDやSDGsの活動紹介や参加者による意見交換等が行われた。また、出席者紹介の中で、EPO九州やESDセンターの紹介を行った。教職員、自治体職員の参加もあり、SDGsやESDに対する関心の高さが伺えた。



○熊本県沿岸地域再生官民連携フォーラムの周知・取材

期 日：平成29年12月1日（金） 15時~18時

会 場：熊本テルサ（熊本市中央区）

参加者：170名

本フォーラムは、「海域環境の保全と改善」「環境と防災の調和」「水産資源の回復と漁業振興」の視点から、環境と調和し生き生きとした沿岸地域づくりを目標としている。

170名以上が参加した設立総会の中では、フォーラムの目標達成のために、大学・研究機関・水産関係等、多様な関係者の科学的知見、情報を共有していくことが強調された。設立総会、記念講演の内容についてホームページ、フェイスブック等でレポートした。



○生物多様性熊本セミナーへの参加・情報発信

期 日：平成 30 年 1 月 20 日（土）
会 場：荒尾干潟及び荒尾市中央公民館
主 催：熊本県 環境生活部 環境局 自然保護課
自然環境・公園班（自然環境講座係）

熊本県荒尾市で行われた熊本県自然環境講座「生物多様性くまもとセミナー」に参加。会場はラムサール条約登録の荒尾干潟で、日本野鳥の会のガイドにより、シロチドリ、メダイチドリ等の渡り鳥の観察を行った。

後半は、荒尾市中央公民館にて、熊本県希少野生動植物検討委員による講義が行われ、ラムサール条約登録干潟の野鳥と熊本県の現状についての紹介がなされた。当日の内容については、EPO 九州の HP とフェイスブックにて発信を行った。



（3）多様な協働取組の促進

環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」において採択された協議会・団体等への伴走支援を進める。また、外部資金事業を活用し、多様な協働取組の支援を行った。

目標

・協働取組実践者による協働のノウハウが共有・発信され、地域における協働を促進させている。

成果目標

- ・関係主体が協働により課題解決に取り組み、EPOの支援により協働の加速化を図る。（1件）
- ・地域における中間支援の知見が発信される。（5件）
- ・外部資金を活用し、団体の基盤を強化する。（3件）

成果目標に対する達成状況

1. 協働取組加速化事業について、第1回連絡会を開催し、事業協力者を交えた協働の加速化に取組んだ。とくに、田中委員や山口委員（現地視察）が出席いただけただことで、審査委員の視点から助言ならびに補足がなされ、採択団体のみならず関係団体においても本事業の意図が直接伝わり、現場に携わる方々の問題意識などのフィードバックを得るなど、双方向の場とすることができた。
2. 全国アドバイザー委員による採択団体へのインタビューを行い、採択団体の活動や本事業の取組について、新聞紙面およびEPO九州のホームページにて発信する企画の調整を進めた。
3. アドバイザー委員や地方審査委員による現地視察をコーディネートし、事業関係者らとの意見交換をとおして、協働や総括の視点でのアドバイスをいただき、採択団体の活動へフィードバックすることができた。

4. 行政担当者を交えた協働取組フォーラムを開催し、協働取組を進める上での工夫や論点を共有するとともに、政策協働の要点を整理・発信することができた。
5. グリーンギフトプロジェクトにおいて、2016年度の活動が終了した。のべ6回のプログラムの企画や運営のサポートをとおして、実施団体のネットワーク形成やプログラムの充実を支援することができた。なお、3県での総参加者数は278名であった。また、実施団体ごとにふりかえりの会議を行い、運営面や安全面等についてよかった点・課題を共有し、改善点については、次年度の活動計画への反映を図った。
6. 協働取組加速化事業について、協働ギャザリングや中期計画の作成に向けて、3年間の取組の総括の視点で助言を行った。また、ステークホルダーへのアンケート調査を実施し、協働取組のメリットや協働意識の把握等を行った。
7. 「政策協働の手引き」と「協働ハンドブック vol.3」の編集チームのメンバーとして、協働プロセスの分析や伴走支援のノウハウの抽出を行い、5年間の事業から得られた知見の取りまとめを行った。
8. グリーンギフトプロジェクトについて、2018年度の活動に向けた調整やプログラムの開催支援を行った。とくに企画立案においては、プログラムのブラッシュアップやネットワークの拡大、実施団体の活動基盤強化を念頭にアドバイスを行った。

① 協働取組の加速化事業の地方支援事務局の運営

環境省「平成29年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」について、地方支援事務局として、加速化事業の公募の周知と問い合わせに対応し、応募団体への相談対応を強化した。採択団体決定後は、採択を受けた団体との連絡調整を行い、月次報告に基づく経過確認と助言を行うとともに、連絡会の開催や現地視察、協議会への出席対応、および必要に応じて、団体への個別訪問を行った。また、協働ギャザリング（成果報告会）での発表資料や中期計画の作成にあたり、3年間の取組の総括の視点でアドバイスを行うとともに、ステークホルダーを対象としたアンケートを実施し、協働参加のメリットや意識の変化を把握した。

また、全国事務局が開催する作業部会や編集会議に参加し、「政策協働の手引き」と「協働ハンドブック vol.3」の執筆作業や知見の取りまとめを行った。

○審査への対応

書類審査

同事業に応募のあった8件に係る書類審査に携わった。また、地方環境事務所とともに、全ての応募案件（団体）に対して面談（6件）や電話（2件）によるヒアリングを行い、実施主体の状況、取組む協議会活動や地域環境要因等を考慮し、事業内容等についてコメント・指摘事項を整理した。

応募団体・ヒアリング実施状況

	団体所在地	団体属性	月日等
1	福岡県	NPO 法人	4月17日（月）・面談
2	福岡県	NPO 法人	4月18日（火）・面談
3	大分県	NPO 法人	4月13日（木）・面談
4	鹿児島県	NPO 法人	4月13日（木）・面談
5	鹿児島県	NPO 法人	4月13日（木）・面談
6	鹿児島県	NPO 法人	4月13日（木）・面談
7	鹿児島県	任意団体	4月17日（月）・電話
8	沖縄県	NPO 法人	4月18日（火）・電話

地方審査委員会の開催

九州地方環境事務所が地方審査委員会を開催し、審査委員4名による審査が行われた。EPO九州は地方支援事務局として、審査委員会の運営に携わり、情報収集・ヒアリング等に基づいた審査委員への説明補助の他、外部委員3名の謝金と旅費の支払事務を行った。



審査会の様子

審査委員

所属・役職	氏名	備考
長崎大学 経済学部 准教授	山口 純哉	審査委員長
NPO 法人グリーンシティ福岡理事	志賀 壮史	
毎日新聞社 医療福祉部長	田中 泰義	全国アドバイザー委員
九州地方環境事務所環境対策課 課長	萩ノ脇 裕司	

採択団体

審査委員会の結果、次の団体が九州・沖縄ブロックから採択された。

団体名	事業名
NPO 法人おきなわグリーンネットワーク	おきなわ地域“美ら島・美ら海”連携プロジェクト

また、採択にあたっては審査委員より要望事項、取組にあたっての留意点が示され、これをふまえて事業に着手することとなった。

○連絡会の開催状況

	開催日	開催地	備考
第1回	7月6日	沖縄県国頭郡東村	事業概要の共有、取り組み手法について意見交換。
第2回	12月14日	福岡県福岡市	地方審査委員の山口委員、志賀委員が出席

第1回連絡会の開催

採択団体、九州地方環境事務所および審査委員会委員を交え第1回連絡会を開催した。連絡会では、EPO九州より今年度の事業や年間スケジュール、ツール等の説明を行い、続いて採択団体による事業内容の紹介が行われた。また、審査委員より委員会での要望事項に対するアドバイスをいただくとともに、いままでの取組の総括について、意見交換を行った。

また、連絡会終了後、全国アドバイザー委員である田中泰義委員より、おきなわグリーンネットワークの西原隆理事長へのインタビューが行われた。インタビュー結果は8月2日発行の毎日新聞に掲載され、沖縄特有の環境課題である赤土流出問題や本事業の取組を広く発信する機会となった。なお、EPO九州でも、インタビューの様子をHPに掲載し、採択団体の活動発信を行った。

期 日：平成29年7月6日（木）14時～16時

会 場：東村役場 会議室（沖縄県国頭郡）

参加者：16名

活動地視察

翌7日には活動地視察として、東村のチャレンジ農場やサトウキビ畑を訪問し、ベチバーの生育状況や流出対策効果を確認するとともに、農業環境コーディネーターより、農家さんへのアプローチの工夫や課題等の説明を受けた。また、参加した他地域のコーディネーターより、緑肥や心土破碎の効果に係る質問もあり、コーディネーターの技術向上を図る意見交換の機会ともなった。



第1回連絡会の様子



現地視察の様子

○第2回連絡会の開催

採択団体、九州地方環境事務所、審査委員および全国支援事務局を交え、第2回連絡会を開催した。

採択団体より3年間の取組に係る中間報告が行われ、環境保全、地域活性化、パートナーシップの効果について、委員をはじめとする出席者より多くのアドバイスをいただくことができた。支援事務局として、連絡会での要望や提案をふまえ、協働ギャザリングや中期計画の作成に向けてフォローしていく。また、農業環境コーディネーターや県担当者へのヒアリングで得たコメントについても、パートナーシップ形成や政策協働の視点で整理し、伴走支援のノウハウとしてまとめていく。

2月に開催される成果報告会に向け、成果創出に向けた取組の整理や中期計画のブラッシュアップ等の必要性が確認された。意見交換の内容については別紙を参照。

期 日：平成29年12月14日（木）10時～12時

会 場：久留米大学福岡サテライト（福岡市中央区）

主な議題：

- (1) 協働取組加速化事業の進捗について（地方支援事務局）
- (2) 採択団体による事業進捗の報告・意見交換
- (3) 報告会・中期計画（フォーマット）について



会議の様子

○採択団体への支援取組

NPO 法人おきなわグリーンネットワーク

事業名：おきなわ地域“美ら島・美ら海”連携プロジェクト

採択団体とは主に電話やメールをとおして、取組の進捗状況や今後の予定等について共有を行うとともに、団体からの問合せに対しては、適宜必要な取組事例を収集し、情報提供を行った。

月日、場所	取組内容
6月上旬 電話・メール	審査会での採択理由等をふまえ、第1回連絡会開催に向けた連絡調整を行った。連絡会は、採択団体の活動地域にて開催する旨を伝え、主要な関係者とともに、当事業の趣旨や成果獲得に向けた取り組みについて確認を行った。また、連絡会に審査委員出席を調整し、具体的な審査論点を共有する場づくりについて調整を行った。
7月6日 東村役場	第1回連絡会。本事業の目的や活動内容の確認を行うとともに、審査会での指摘事項への対応や事業の総括にむけた取組等について協議した。
7月7日 東村、大宜味村	東村のチャレンジ農場やサトウキビ畑への視察を行った。また、農業環境コーディネーターより、赤土対策における普及・実践の工夫や課題等について説明を受けた。
7月28日 恩納村ふれあい 体験学習センター	第1回協議会（情報交流会）。本事業の主要関係者となる7市町村の自治体担当者とコーディネーター、および県の4つの部署や研究所など総勢30名の関係者が出席するなど、第1回連絡会をとおして関係者間に目的意識や役割分担についての動機が強化されたことにより、協働のネットワークに地域的な広がりや専門的な厚みが生まれた。 また、コーディネーターをコアメンバーとすることで、コーディネーターを配置している各自治体との情報共有や連携が促進されており、8月に本事業で開催した技術見学会では、他地域での開催を希望する声があり、県営農支援課の事業での対応が検討されるなど、県の事業形成にインパクトを与えるケースも生まれている。今後も政策協働の視点で、好事例の把握・収集に努める。
10月23日 恩納村	3R全国大会への出席のため来沖した全国アドバイザー委員（1名）による活動地視察へ同行。恩納村のサトウキビ畑を訪問し、農地からの赤土等流出の現状と農業環境コーディネーターと連携した対策活動について説明を受けた。また、農業環境コーディネーターとの協働が広がっていることについて意見交換を行った。
11月21日 恩納村	地方審査委員（1名）による活動地視察へ同行。修学旅行生によるサンゴの苗づくり体験とサトウキビ畑でのグリーンベルト植栽活動の視察を行った。サンゴの植付体験を行う漁業組合と農業環境コーディネーターが役割分担し、体験活動を受入れるなど、地域ぐるみでの受入れ体制づくりが進んでいることを確認した。
11月22日 那覇市	第2回連絡会と協働取組フォーラムの打合せ。県営農支援課担当者、採択団体とともに連絡会での報告内容やフォーラムの企画について協議を行った。また、県担当者には政策協働とパートナーシップの視点でヒアリングを行った。
2月5日 那覇市内	採択団体の事務所にて、協働ギャザリングでのプレゼン資料やコミュニケーションタイムの進行等について打合せ。コミュニケーションタイムでは①農業コーディネーターをコアメンバーとした農地での対策推進、②漁業関係者との協働取組の実践、③ベチバーオイルの商品化検討や企業連携を軸に、協働の歩みを紹介することとした。
2月6日 恩納村	第2回協議会への参加。農業環境コーディネーター、県・市町村担当者、研究機関等の関係者が24名参加し、今年度の活動内容と成果の共有が行われた。とくに、今年度は農業環境コーディネーターのネットワークをとおした対策の推進、漁業関係者など新しいSHの巻き込みと連携した対策活動を軸に、企業との接点強化など、多様なステークホルダーとの協働取組を進めることができた。また、出席者へのアンケート調査を実施し、協働取組のメリットや協働意識の把握等を行った。

全国アドバイザー委員による活動地視察

期 日：平成 29 年 10 月 23 日（月）

場 所：恩納村の農地（沖縄県恩納村）

全国アドバイザー委員：1 名 鬼沢 良子氏

3R 全国大会へ出席するため、沖縄を訪問した全国アドバイザー委員とともに、恩納村の活動地への視察を行った。採択団体の代表者および恩納村の農業環境コーディネーターより、今年度の活動内容や農地での赤土対策の状況・課題等について、説明が行われた。また、これまでの取組の総括について、アドバイザー委員より、当事者が実感している成果をもとにまとめてはどうか、とのアドバイスがあった。



意見交換の様子

修学旅行生によるグリーンベルト植栽活動の視察と専門家助言

期 日：平成 29 年 11 月 21 日（火）

場 所：恩納漁港、恩納村情報文化センター、および村内の農地（沖縄県恩納村）

専門家：志賀 壮史氏

参加者：20 名

神奈川県内より修学旅行で訪問した小学生の体験プログラムとして、海の保全のためのサンゴ苗づくりと農地でのグリーンベルト植栽が行われた。体験の受入れにあたっては、恩納村担当者、農業環境コーディネーター、採択団体が中心となり、恩納村の漁業組合や恩納村情報文化センターと協働し、プログラム企画や現地との調整が行われた。今回の受入れをとおして、村内の多様な主体が観光体験、環境保全、地域活性化などの視点で連携・協働し、村外からの訪問客の受入れる体制づくりを進める機会となった。

また、今帰仁村の農業環境コーディネーターがオブザーバー参加するなど、恩納村での対策活動や受入れノウハウを共有する機会ともなった。今後も、農業環境コーディネーターが各地域での活動に参加することで、対策活動のノウハウの水平展開が進むことが期待される。志賀氏より、取組の効果算出について、社会的費用対効果（SROI）の視点より、算出された数値の意味や価値をわかりやすく説明する必要性が指摘され、第 2 回連絡会に向けた論点整理が行われた。



サンゴ苗づくり体験の様子



グリーンベルト植栽活動の様子

○協働ギャザリング（成果報告会）への参加

期 日：平成30年2月17日（土）

会 場：国連大学（東京都渋谷区）

出席者：約100名

プログラム名：「協働ギャザリング 2018～環境×協働の未来を考える～」

プログラム内容：

1. アピールタイム：協働の視点で活動内容のショートプレゼン

各採択団体より、協働取組のプロセスやステークホルダーマップの変容を中心に活動内容の紹介を行い、協働による成果を共有した。また、各EPOより「団体が担った中間支援機能」についてコメントを行った。

2. 話題提供

国連大学サステナビリティ高等研究所の渡辺綱男氏より、「地域の協働で新たな流れを」と題して話題提供が行われ、SDGsの紹介と佐渡市におけるトキと共生した町づくりの事例紹介がなされた。

3. コミュニケーションタイム：事業担当者と参加者が直接質疑応答・意見交換

前半のポスターセッションと後半のグループワークの2部構成で行われ、ブースごとに各団体が活動紹介と参加者との質疑、意見交換を行った。ポスターセッションでは、参加者が記入した付箋に基づき、団体担当者との質疑応答が行われ、活動内容や協働の進め方に関して理解を深めた。グループワークでは、「活動のあゆみ」と「ステークホルダーマップの変容」をもとに、EPO担当者がファシリテーションを行いながら取組内容を掘り下げ、協働の観点で重要な事項をピックアップし、参加者との対話をとおして、協働の促進要因や阻害要因等について理解を深め、協働ノウハウの共有を図った。

3年連続の取組ということで、関心の高い参加者が多く、ネットワークの広がりや対策の充実、各ステークホルダー間の役割分担や関係強化の面について、「3年間の取組だからこそ達成できた成果ですね」というコメントもいただき、協働取組を継続していくことの重要性と成果の大きさを共有する機会となった。



アピールタイムの様子



コミュニケーションタイムの様子

○全国支援事務局との連携

地方支援事務局による伴走支援にあたっては、必要な情報等を全国支援事務局に照会し連携をはかった。

作業部会等に出席し、各ブロックでの進捗状況を共有するとともに、協働のノウハウをまとめた「協働ハンドブック vol.3」および「政策協働の手引き」の内容検討を行った。協働ハンドブックは「協働の場の回し方（協働のプロセス）」をテーマに全体構成や事例の検討に取組み、協働ハンドブックの掲載事例としてNPO法人くすの木自然館の取組、政策協働の手引編集において全採択案件の基礎情報フォームと好事例紹介フォーマットを作成し、掲載事例としてNPO法人おきなわグリーンネットワークの取組を紹介した。



協働ハンドブック
「協働の仕組」



政策協働の手引き
「環境保全からの政策協働ガイド」

打合せ等の状況

月日、場所	取組内容
7月3日 GEOC	政策協働の手引き第1回編集会議 5か年の事業成果をとりまとめ、行政担当者等における協働促進につながる冊子としてとりまとめることが確認された。 EPO九州では、「マルチステークホルダープロセス」について担当し、関連する事例等を紹介することとした。
8月2日 ミュージア川崎	協働取組第1回作業部会。「協働の場の回し方（協働のプロセス）」をテーマに協働ハンドブックを作成することとなり、ワークショップ形式で、全体構成や事例の検討を行った。
9月20日 GEOC	政策協働の手引き第2回編集会議 第1回編集会議をふまえ、章立てをもとに意見交換し、記載内容や構成についての調整を行った。 第2回EPO連絡会において提案することとした。
10月18日 日本NPOセンター（東京都千代田区）	協働取組第2回作業部会。ハンドブックに掲載する2事例を選定するための意見交換、および協働ギャザリングの内容についての企画検討を行った。
12月5日 GEOC	政策協働の手引き第3回編集会議。第2回全国EPO連絡会での議論やアドバイザー委員からのアドバイスをふまえ、記載内容や構成について意見交換を行い、各執筆担当者が加筆修正作業を進めた。
2月16日 GEOC（東京都渋谷区）	協働取組第3回作業部会。EPOの伴走支援のふりかえりを行った。ギャザリング資料である「活動の歩み」をもとに「見立て」と「打ち手」という視点でふりかえり、伴走支援のノウハウの分析と共有を行った。

②協働フォーラムの開催

「協働取組加速化事業」の採択を受け、モデル事業の実証に取り組んできた団体による、事業の成果を共有・発信するフォーラムを開催した。採択された5団体と協働取組に参画した自治体担当者による活動紹介が行われた。活動紹介では「ネットワーク型政策協働の取組」「未利用資源活用型政策協働の取組」「マルチステークホルダー型政策協働の取組」の3つのカテゴリーに分けて、セッションが行われた。また、パネルディスカッションでは、3名のアドバイザーと団体・自治体担当者との意見交換がなされ、官民協働を推進するための工夫やノウハウを共有する機会となった。また、地域での協働促進に向けた政策協働の要点として、「得意分野を活かす・信頼関係を築く」、「もう一歩“川上”のことを話しあう」、「ソーシャルキャピタルのプラットフォーム」などのキーワードを参加者と共有することができた。

フォーラムの配布資料、参加者のコメント、アンケート結果については巻末に添付。

期 日：平成29年12月14日（木）14時～17時

会 場：久留米大学福岡サテライト（福岡市中央区）

参加者：34名（うち、事例紹介者10名、関係者7名、スタッフ3名）

後 援：久留米大学 経済社会研究所



団体による活動紹介の様子

○協働取組フォーラムの開催に向けた調整

フォーラムの開催にあたり、採択団体と関係自治体、およびアドバイザーを訪問し、企画説明と協力依頼を行った。

採択団体・関係自治体等との打合せ状況

	訪問先	訪問日
採択団体	NPO 法人 グリーンシティ福岡	11月9日
	一般社団法人 小浜温泉エネルギー	11月2日
	NPO 法人 くすの木自然館	11月2日
	NPO 法人 筑後川流域連携倶楽部	11月9日
	NPO 法人 おきなわグリーンネットワーク	11月22日
関係自治体	福岡県企画・地域振興部広域地域振興課	11月1日
	雲仙市環境水道部環境政策課	11月2日
	霧島市市民環境部環境衛生課	11月2日
	久留米市商工観光労働部新産業創出支援課	11月1日
	沖縄県農林水産部営農支援課	11月22日

アドバイザー	長崎大学経済学部 准教授 山口 純哉	12月4日
	NPO 法人グリーンシティ福岡 理事 志賀 壮史	11月1日
	特定非営利活動法人 持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長 鬼沢 良子	12月5日
広報依頼	福岡市市民局コミュニティ推進部 市民公益活動推進課	11月9日

③その他 協働取組の促進と支援

地域で環境保全に取り組む団体や、地方自治体、企業、個人等の活動を推進し、より一層地域に根差した活動に深化させるため、各主体間のネットワーク構築を推進し、必要な指導・助言を行った。あわせてEPO九州の窓口運営をとおして問合せ・依頼のある活動をもとに、協働取組に発展させこれを支援する。

また、その一環として各主体から発案される政策提案について積極的に支援し、必要に応じて意見交換を行う。具体的な案件支援にあたっては、運営委員等と連携しながら取組を強化する。

○アースウィークくまもと

各種関係企画について検討する実行委員会に参画し、ノーマイカーパレードおよび講演会・パネルディスカッションに参加した。

実行委員会へ参画

月日、場所	打合せ内容
4月14日 熊本学園大学	アースウィークくまもと第4回実行委員会。 4/19 のノーマイカーパレード、4/23 講演会・パネルディスカッションに関して最終打ち合わせ。 (ノーマイカーパレードの順路、講演会・パネルディスカッションの会場配置など。)
4月19日	ノーマイカーパレード参加
4月23日	講演会・パネルディスカッション参加
2018年 2月5日	アースウィークくまもと2018の活動方針について協議。 ノーマイカーパレード、EVバスについての啓発に取組むことが確認された。



ノーマイカーデーパレード（通町）の様子



講演会の様子

○温暖化防止活動推進センター推進員研修会への協力

NPO 法人くまもと温暖化対策センター等より推進員研修の依頼があり、SDGs や ESD を含めた情報提供を行い、研修に協力した。

研修では、協働取組の事例をもとに多主体による連携の必要性を提案し、温暖化防止活動における地域ぐるみの取組みについて推進員の役割や関りについて活動モデルを提示した。

研修をとおして、持続社会づくりに向けた多主体の関りについて認識が高まるとともに、参加者からは、行政と連携した活動づくりについて、実践事例の紹介があり、参加者間の情報交流が促進された。このほか、宮崎県、福岡県の推進員研修会へ協力した。



センター	日程
熊本県地球温暖化防止活動推進センター	6月28日(水)、7月10日(月) 7月12日(水)、18日(火)
熊本市地球温暖化防止活動推進センター	6月3日(土)
宮崎県地球温暖化防止活動推進センター	7月5日(水)、6日(木)、7日(金)
福岡県地球温暖化防止活動推進センター	9月13日(水)



熊本県温暖化防止活動推進センター研修の様子

○全労済 地域助成審査への協力

全労済が全国で募集する地域助成（子ども分野・環境分野・防災分野）について、西日本ブロック審査員（中・四国、九州）として応募案件の一次審査（書類）ならびに二次審査（審査会）へ協力した。

審査会

日時 平成29年6月7日

会場 全労災西日本本部会議室

審査会では、地域課題に応じた取組について、活動の将来性や地域との連携等を視点に助言等を交えながらこれに対応した。

九州・沖縄地域の採択団体は次の通りである。

県	団体名	活動名
福岡県	Little Hands	小学校や地域の方と連携した、地域に住む子どもたち・親子対象のイベントの企画開催
佐賀県	開成っ子はぐくみ会	開成ライトファンタジー
熊本県	球磨湿地研究会	熊本県球磨地域における希少種生息湿地の保全と地域一体となった再生・維持活動
大分県	大分人権教育ワークショップ研究会	多文化中高生交流会&進路ガイダンス
宮崎県	NPO 法人宮崎 21 高齢者福祉研究会	困難を抱える子どもや親の居場所作りと南宮崎芸術大学の開催
宮崎県	高千穂町吹奏楽連合会【tzedakah】	熊本地震被災地支援 異世代交流事業
鹿児島県	特定非営利活動法人かごしま自然学校	親子・地域ぐるみの体験活動を通じた廃校活用モデル事業

全労災地域貢献助成事業

<http://www.zenrosai.coop/zenrosai/csr/joseijigyuu.html>

○国際ボランティアワークキャンプ「未来職道」への協力

高校生有志による実行委員会と熊本市国際交流振興事業団が連携し、様々な社会活動について高校生が分科会を企画し意見交換を行うプログラムが開催された。

同プログラム内において、地域の活動団体・支援団体の取組を紹介する企画への協力依頼があり、EPO 九州ならびに九州地方 ESD 活動支援センターの取組を、リーフレット、SDGs の PR 映像等を交えて紹介した。

参加者は、ESD そのものが初めて知る言葉であり、言葉の説明をとおして持続社会づくりの大切さについて理解を広げる機会となった。

日 時 平成 29 年 8 月 9 日 19 時～21 時

会 場 国立阿蘇青少年交流の家 研修室

参加者 80 名（熊本県内外の高校生や大学生）

○熊本市環境活動団体連絡会議への参加

熊本市温暖化防止活動推進センターの呼びかけにより、熊本市内で活動する団体間の活動連携に向けた意見交換会が開催された。

具体的な協働・連携には至っていないが、ESD の推進や SDGs の動向について情報提供し、環境団体における拠点登録や普及啓発促進を呼びかけた。

日 時：平成 29 年 10 月 3 日（火）

会 場：熊本市西部環境工場

参加団体：5 団体

○水俣地域づくり活動団体意見交換会への参加

水俣地域で活動する事業者、団体が集まり、地域づくり活動のネットワークづくりや、新しい取組みづくりに向けた意見交換を行った。

国立水俣病総合研究センター総務課よりお声がけいただき、ESD 等に関する話題提供と活動づくりに向けたファシリテーションを行った。

意見交換をとおして、新たな組織や事業を立ち上げるのではなく、それぞれが持っている資源を必要に応じて連携させるクラウド型の関り方を進めることが合意された。

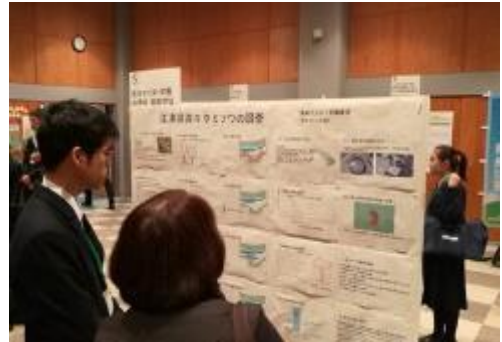
日 時：平成29年10月25日（水）
会 場：田中商店会議室（水俣市）
参加団体：5団体

○熊本市生物多様性ミニシンポジウムへの参加

熊本市では平成28年3月に熊本市生物多様性地域戦略を策定したことから、生物多様性に関する取組を行っている活動団体等を交えたミニシンポジウムを開催することとなり、EPO九州も出席対応を行った。

期 日：平成30年3月4日（日）
会 場：熊本市動植物園（熊本市）
出席者：約90名

熊本市生物多様性地域戦略の策定に係った有識者、NPO、企業、および高校生約90名が出席した。ポスターセッションでは、ポスターセッションでは、EPO九州および九州ESDセンターのパネル展示を行い、取組の紹介を行った。また、ワークショップはワールドカフェ形式で行われ、テーブルごとに6名前後の出席者が集まり、お互いの活動を紹介しながら質疑応答を行い、取組への理解を深めた。



シンポジウムへの参加をとおして、熊本市内で生物多様性の保全や普及啓発に取り組んでいる団体・企業との接点を持つことができた。また、高校生が取組む環境活動の情報収集を行った。今後、ユースの環境活動の支援や発信に向けて、連携した取組につなげていきたい。

(4) 地域ぐるみの ESD 推進

環境教育・ESDに係るプラットフォーム形成に向けて、「ESDに関するグローバルアクションプログラム国内実施計画」をふまえ、関係機関や団体、ステークホルダー等と連携し、ESDに関する情報を積極的に収集・発信し、地域ぐるみのESD推進を支援する。

各分野におけるESD活動の強化に向けた支援を行う他、環境省「平成29年度環境教育・学習における「ESD推進」のための実践拠点支援事業」(以下、ESD推進拠点支援事業)を実施する。推進拠点支援にあわせて、若者による意見交換の場づくりにも取り組む。

目標

- ・地域ぐるみのESD推進に向けて、ESD推進を担う地域主体の取り組みを把握し、ネットワーク推進を図る。
- ・ビジターセンターを始めとする自然系拠点を巻き込んだESD推進を図る。
- ・若者の持続社会づくりについての関心が高まり、環境政策に関する提案を促進させる。
- ・九州地域の環境教育ネットワークが促進され、様々な地域課題と環境教育・ESDが連携した場づくりが促進させる。

成果目標

- ・ESD推進拠点の支援を行い、地域における先導的拠点化を図る。(3件)
- ・若者からの環境政策に関する発信が行われる。(5件)
- ・自然系拠点が取り組む活動やフィールドの魅力が発信される。(10件)
- ・地域課題が環境教育ESDの視点から広く発信される(5件)

取り組みにあたっては、九州地方ESD活動支援センターの周知を行い、同センターの取り組みと連携させる。

成果目標に対する達成状況

1. ESD実践拠点支援事業について、3つの拠点において、推進会議を開催し、拠点ごとの成果目標に対する達成状況の共有と意見交換を行うとともに、EPOの支援内容の整理および中間の成果の取りまとめを進め、事業関係者とともに活動推進に取組んだ。
2. ESD実践拠点支援事業の取組として、熊本県環境センター等と連携し、大学生を対象としたワークショップを水俣市で開催した。県環境センターや水俣病資料館等の見学やワークショップをとおして、若者目線で施設の展示や学びの場づくり等について提案とメッセージを発信した。
3. ビジターセンター意見交換会を開催し、ビジターセンター間の関係促進を進めるとともに、ESD推進に向けた理解促進を図るため、拠点登録を含む情報提供や意見交換の場づくりを行った。
4. 自然体験施設ネットワーク交流会に参加し、各施設の活動情報を収集するとともに、EPO九州および地方ESDセンターの紹介を行い、ESD推進ネットワーク形成に向けた拠点登録の紹介等を行った。
5. 九州環境教育ミーティングについて、平成30年2月に開催し、地域における防災の視点と環境教育の関りについて意見交換を行った。また、「地域ESD活動推進拠点」の紹介を行い、周知を図った。

① 環境省「ESD 推進拠点支援事業」 地方支援事務局の運営

九州・沖縄地域より支援拠点先を3か所選定し、協働プラットフォームの設置、推進計画によるESD推進、推進会議の開催など地方支援事務局として必要な業務を行う。

○アドバイザー・ボード会議への出席

全国支援事務局が開催した、各ブロックより推薦された専門家・有識者等から構成されるアドバイザーボード会議に出席し、拠点支援にあたっての目的や獲得成果、支援手法等についての議論を共有し、地域における拠点支援の参考とした。

アドバイザーボード会議の概要

日時 平成29年6月8日 10:00-12:00

会場 地球環境パートナーシッププラザ

出席者 アドバイザー委員、地方事務所担当官、地方EPO担当者

アドバイザー委員

及川 幸彦（全国）	東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター 主幹研究員
高田 朝子（全国）	法政大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
三上 直之（北海道）	北海道大学高等教育推進機構 高等教育研究部高等教育推進部門 准教授
遠藤 智栄（東北）	地域社会デザイン・ラボ 代表
大塚 明（関東）	持続可能な開発のための教育推進会議 理事
大鹿 聖公（中部）	愛知教育大学 理科教室講座 教授
大野 智彦（近畿）	金沢大学人間社会研究域 法学系 准教授
西村 仁志（中国）	広島修道大学人間環境学部 教授 環境共育事務所カローズ代表
近森 憲助（四国）	鳴門教育大学大学院学校教育研究 特命教授
富田 剛史（九州）	トミタプロデュース 代表

○地域 ESD 実践拠点への支援

支援対象拠点と支援における視点

支援対象拠点	支援における視点
北九州まなびと ESD ステーション (福岡県)	企業の ESD に対する理解度を向上させるための方策及び地域の ESD 活動へ参画するための動機付けを明らかにすること。
熊本県 環境センター (熊本県)	地域の行政、環境・社会学習施設、学校等が地域資源をもとに連携して、ESD の人材育成に取り組むために必要とされる要件等を明らかにすること。
日南市子育て支援センター ことこと (宮崎県)	多様な主体が地域資源のもとで ESD 活動に取り組むための地域ネットワークを形成する過程等を明らかにすること。

推進拠点における支援状況

■北九州まなびと ESD ステーション

協働プラットフォームメンバー

所属・役職	氏名
北九州市立大学 地域創生学群 学群長	眞鍋 和博
北九州まなびと ESD ステーション 特任教員	宮原 昌宏
北九州市環境局環境学習課 ESD 推進係長	武富 里枝
北九州市立大学地域・研究支援課 地域貢献係長	小嶺 一彰
北九州 ESD 協議会 事務局長	増田 政徳
一般社団法人ピープラス 代表理事	原水 敦
株式会社人材屋 代表取締役	西内 孝綱

取組内容

「地域 ESD 学びあいフォーラム」において、地域での学びづくりの事例を広く周知するため、北九州まなびと ESD ステーションよりその取組を紹介する機会とした。

なお、高校生・大学生を対象とした「マイプロジェクト」のスタートアップ合宿(9/16-18)の2日目に参加し、活動の進捗把握と社会人参加者へのヒアリングを行う予定であったが、台風の九州上陸により参加を見送ることとなった(スタートアップ合宿は実施)。

企業関係者へのヒアリングを行い、企業が ESD 活動に協力した経緯やメリット等の把握を行った。また、第2回推進会議を開催し、成果目標に対する達成状況を共有するとともに、企業の ESD 活動への参画を促す要因について意見交換を行い、企業の若手職員を対象とした研修実施の可能性について協議した。

評価会議や全国成果共有会に向けて、取組の総括と成果の取りまとめを行った。評価会議では、拠点の変化や強化された機能、および企業が ESD 活動に参画する動機付けについて意見交換を行い、活動の成果を共有した。

また、マイプロ九州大会に参加し、高校生・大学生の活動内容を把握するとともに、若

者に ESD 活動に対して関心を持ってもらう工夫や ESD 活動を継続させるために必要なサポート等について、参加者と意見交換を行った。

月日、場所	取組内容
5月2日 北九州まなびと ESDステーション	ESD実践拠点支援の打診。参加者4名。 昨年度の取組をふまえ、大学生を対象としたプログラムを開催するとともに、社会人伴走者の配置や企業の参画を促す仕組みづくりについて検討を行った。
6月2日 北九州まなびと ESDステーション	事業関係者打合せ。参加者4名。 ESD拠点支援事業の実施計画案をもとに協働プラットフォームのメンバーや全体企画、企業の巻き込み等について協議を行った。 プログラムとしては、高校生対象のマイプロジェクトに大学生の参加を呼びかけ、社会人のメンターを配置する方針が決定した。
6月22日 北九州まなびと ESDステーション	第1回推進会議開催。参加者12名。 地方事務所及びEPO九州より、本事業の趣旨や目的等について紹介後、北九州まなびとESDステーション側より、今年度の活動内容の提案が行われた。企業の巻き込みについては、人材派遣やキャリア教育を行う企業のネットワークを活用し、活動への協賛募集や人材派遣への働きかけを強化する。
7月8日 メール	主にメールにて、企画主旨ならびに事例発表の方法について連絡相談し、調整を行った。
8月23日 ホテルニューグアイ オームタガーデン (大牟田市)	地域ESD学びあいフォーラムにて、まなびとESDステーションが取組んでいるマイプロジェクトの事例紹介が行われた。
10月10日 まなびとESDステーション	マイプロジェクトのスタートアップ合宿の内容や企業の参画要因等について意見交換を行った。
10月10日 まなびとESDステーション	ESD活動支援センターのESDレポーター事業との連携。社会人ユースESDレポーターの九州・沖縄ブロック担当である與儀滝太氏による、北九州まなびとESDステーションへの訪問をコーディネートし、インタビューに同席した。
1月19日 まなびとESDステーション	評価会議に向けた打合せ。活動内容や成果等の確認を行うとともに、年内の活動予定や次年度の事業計画等を共有した。
1月25日 まなびとESDステーション	評価会議の開催。出席者は10名。拠点の変化や強化された機能、および企業がESD活動に参画する動機付けについて意見交換を行い、活動の成果を共有した。 また、社会人のコミュニケーション能力等の向上を目的とする研修の機会として、マイプロを位置づけることで、企業の参加メリットを可視化できるのではないかと意見があった。
2月24日 西日本工業大学 小倉キャンパス (北九州市)	マイプロ九州大会に参加。高校生を中心に関係者約100名が出席。九州・四国地方の高校生19チームと大学生3名による活動報告が行われた。マイプロに取組んだ感想として「主体的に考えることができるようになった」「責任感が増した」「自分に自信がついた」などのコメントがあり、マイプロの教育効果の高さを実感した。
3月14日 まなびとESDステーション	次年度の拠点支援事業の方向性について、拠点関係者と意見交換を行った。マイプロに係る関係者(高校生・社会人など)の意識の変容の把握や企業との連携強化を軸にした活動ができないかと提案があった。

成果

協働プラットフォームのメンバーに、人材派遣会社が参画したことで、新しい企業へのアプローチが可能となり、マイプロにより多くの社会人が協力することにつながった。また、CSRの一環として社員を派遣する企業もあり、企業を巻き込むためのインセンティブが明らかになりつつある。今後は、協力企業へのヒアリング等を行い、ESD活動に対するインセンティブのあり方等について検討を行いたい。

また、大牟田市教育委員会の主催による「ユネスコスクール・ESD研修会」の分科会の一つとして開催した「地域ESD学びあいフォーラム」において、北九州まなびとESDステーションの事例を紹介した。事例紹介をとおして、若者が主体となったESD取組を教育委員会等の学校関係者に周知し、ネットワーク形成の機会を提供できた。

また、水俣市と日南市における拠点支援事業の担当者との事例共有をとおして、それぞれの取組を相互参照し、ノウハウや工夫を学びあう機会となり、拠点間ネットワークを形成する土台作りができた。

企業関係者へのヒアリングをとおして、マイプロジェクトに係るメリットとして、学生への伴走支援による対人スキルの向上や社会貢献・地域活性化への寄与、学生のベンチャー意識の醸成などが挙げられた。一方、企業へのアプローチとして「社会貢献」だけでは訴求力が弱いことから、「社員の人材育成」に焦点を絞った研修を設計できないか検討を進めることとなった。

8月23日に開催したESD学びあいフォーラムをきっかけに、鹿児島大学の井倉洋二准教授が学生を引率して、北九州まなびとESDステーションを訪問するなど、ESDや地域づくりをキーワードに実践者や学生による交流が進んでいる。

目標に対する成果

企業がESD活動に参画する動機付けとして、以下の点を把握することができた。

①高校生対象のマイプロに大学生が参加することで、企業の「採用意欲」を刺激し、マイプロに対する関心度が高まり、活動に協力する社会人や協賛する企業が増加した。

マイプロ	社会人協力者の数	協賛企業の数
2016年度の活動	37名	4社
2017年度の活動	98名	6社
増加	61名	2社

②社会人協力者を増やす工夫として、学生へのフォローアップの機会を月2回程度開催するとともに、参加者をマイプロ関係者に限定せず、広く参加を呼びかけたことで、活動の途中で関心を持った社会人が参加しやすくなる環境を整えたことが挙げられる。

③マイプロへの参加を「社会貢献」ではなく、社員のコミュニケーション能力等を向上させる「研修の機会」と位置付けることで、企業の参加を促す可能性が高まることがわかった。

④また、本年度の取組のアウトカムとして、マイプロと社会人の研修を兼ねたプログラム「SDGs社内リーダー育成講座」が、次年度開催されることとなった（主催：北九州ESD協議会）。

■熊本県環境センター

協働プラットフォームメンバー

所属・役職		氏名
熊本大学教育学部	教授	宮瀬 美津子
水俣環境アカデミア	所長	古賀 実
水俣市立水俣病資料館	副館長	草野 徹也
(社) 環不知火プランニング	代表理事	森山 亜矢子
熊本県教育委員会 義務教育課	指導主事	土肥 弘実
熊本県立水俣高校	教諭	春木 誠仁
熊本県環境立県推進課 環境計画班		大和 由奈
熊本県環境センター	館長	篠原 亮太
	副館長	金丸 政治
	主任技師	宮崎 康平
	指導員	淵上 正信
		森山 祐一
坂本 彰		
国立水俣病総合研究センター	総務課長	三宅 俊一

取組内容

第1回推進会議を開催し、今年度の取組方針等について協議した。具体的には、①ESDプログラム意見交換会（熊本県環境センター、水俣病資料館と連携）、②ユースによる政策提案ワークショップ、③水俣学習に取組む学校等へのヒアリング、④ESD推進に向けた発信の場を検討した。推進会議をふまえ、各取り組みについて着手し日程調整等を行った。

また、連携拠点となっている水俣環境アカデミアよりシンポジウムへの協力依頼があり、ESD推進、ネットワーク形成について話題提供を行った。

「地域ESD学びあいフォーラム」では、水俣学習の現状について環不知火プランニング森山氏よりESDとしての学習活動や水俣で学びを深める意義について発表いただき、拠点間連携の必要性が示された。

環境学習施設等が連携促進するため、協働プラットフォームメンバーを招きESDプログラム意見交換会を実施し、各施設の活動内容を共有・意見交換を行った。参加者から、とくに、水俣病資料館によるガイドの内容について、ESDの要素が豊富であるとの高い評価があった。

熊本大学の学生を対象に行った熊本県環境センター等の施設見学とワークショップでは、若者目線での学びづくりや施設展示のアイディアの提案が行われた。

また、水俣学習に取組む九州内外の高校・中学校へのヒアリングを行い、水俣での学びに対する期待や事前準備から事後学習までの学びのカリキュラム等について聞き取りを行った。

第2回推進会議では、取組状況の共有と水俣での学びを深めるための施設間の連携や情報共有・発信のあり方等について意見交換を行った。また、水俣の取組について県外の学校からも高い注目を得ていることから、地域全体での学びの受入れ体制づくりが求められている。

プログラム検討会

熊本県環境センターが主催する「エコロジストリーダー養成講座」について、ESDの視点を取り入れながら、次年度の企画につなげる意見交換の場づくりを行った。

現状のプログラムについて説明を受け、プログラムの内容や取り組み方について以下の提案等が出された。

- ・ターゲットとして、新しい参加者のすそ野を広げるためのプログラム

- ESD 的には双方向の時間を確保する
 - 熊本県内の環境学習拠点や既存プログラムとの連携
 - 研修後の受け皿をさらに広げて紹介する
 - 研修名称をもっとソフトなものにする
- などの意見が出された。

第3回推進会議（評価会議）

4つの取組み（プログラム意見交換、教員アンケート、若者WS,ESDプログラム検討）をふまえ、ふりかえりと意見交換を行った。

熊本県環境センターの取組を軸としながら、水俣病資料館、水俣病情報センター、環境アカデミア等、各拠点の強みやメッセージが共有されたことで、連携を継続させていくことが確認された。

月日、場所	取組内容
5月29日 熊本県環境センター	熊本県環境センターリニューアル検討会への参加（15名出席） センターの展示等の見直しにあたり、ESDの視点からメッセージを発信していただくなどの点について助言等を行った。 今年度のESD拠点支援事業とも連携しながら活動に取り組むことを提案した。
6月21日 水俣高校	推進会議にかかる、協働プラットフォームのメンバーとしての参加について打診し、可能な範囲での協力と情報共有に向けた参加について検討いただくこととなった。
6月21日 熊本県環境センター	推進会議に向けて、日程調整を行い7月19日での開催について合意した。 昨年度の取組を踏まえつつ、地域でのESD人材育成に向けた活動づくりを推進会議にて検討することとした。
6月21日 環不知火プランニング 水俣事務所	今年度の企画連携について、水俣で学ぶ学校等のニーズや取組状況をヒアリング等をおして把握するとともに、ESDのモデルプログラム作成について意見交換した。
6月29日 水俣病資料館	推進会議にかかる、協働プラットフォームのメンバーとしての参加について打診し、可能な範囲での協力と情報共有に向けた参加について了解をいただいた。
7月19日 熊本県環境センター	推進会議の開催 15名 昨年度の取組をふまえ、新たに推進メンバーを加えて今年度の支援活動について協議を行った。 ESDプログラム意見交換、ユースによるワークショップ、学校等へのヒアリングを行い、とりまとめ成果発表の場づくりを行うことが確認された。
8月9日 熊本県環境センター	ESDプログラム意見交換の日程案について調整した。 開催日を11月14日とし、準備を進めることとした。
9月22日 打合せ EPO九州	水俣学習に取組む学校等へのヒアリングについて、環不知火プランニング森山氏と打合せ。 関西、福岡県内の高校、中学校の担当教諭へのアンケート等について検討した。
9月27日 打合せ 熊本大学	若者や学生の視点から環境啓発施設のアピール方法や展示等について意見交換、提案する場としてワークショップを開催する企画について、熊本大学環境安全センターを訪問し意見交換を行った。 政策提案等に関心の高い研究室を紹介いただき、連携に向けた打診を進めることとした。
10月20日 甲南女子高等学校(神戸市)	環不知火プランニングの森山代表とともに、水俣への研修旅行を毎年実施している甲南女子高校を訪問。「探求」の授業での水俣病についての事前学習の視察や担当教員への聞き取り等を行った。

10月26日 水俣環境アカデミア等	甲南女子高校の「探求水俣研修旅行」に同行し、水俣学習の展開を視察。また、プログラムに応じて、活動のサポートを行った。
11月14日 熊本県環境センター等	プログラム意見交換会の開催。出席者は協働プラットフォームメンバー7組織。熊本県環境センターおよび水俣病資料館の実際のプログラムを見学後、意見交換を行い、プログラムや説明内容等について提案を行った。
11月14日 熊本県環境センター	第2回推進会議の開催。出席者11名。今年度事業の進捗状況を共有するとともに、12月に予定されているワークショップの企画内容について協議した。また、地域ESD推進拠点登録についての紹介を行った。
11月15日 成瀬中学校（佐賀市）	水俣学習に取り組む私立中学の活動や取組をヒアリング。
11月16日 筑紫野市立二日市中学校	水俣学習に取り組む公立中学の活動や取組をヒアリング。
12月17日 熊本県環境センター等	熊本大学の学生を対象に、県環境センターや水俣病資料館等の見学およびワークショップを開催した。参加者16名。ワークショップでの意見交換とおして、若者目線で施設の展示や学びの場づくり等について提案とメッセージを発信した。
1月23日 環不知火プランニング事務所	12月に開催したワークショップでの意見について、環不知火プランニング森山氏と意見交換。
1月30日 電話・メール	2月8日のプログラム検討WSについて熊本県環境センターと進め方の確認。
2月8日 熊本県環境センター	プログラム検討ワークショップの実施 熊本県環境センターが主催する「エコロジストリーダー養成講座」を題材に、企画プログラムの見直しに向けたワークショップを開催。
2月8日 熊本県環境センター	第3回推進会議（評価会議）の開催。出席者11名。今年度事業の進捗状況を共有するとともに、12月に予定されているワークショップの企画内容について協議した。また、地域ESD推進拠点登録についての紹介を行った。

成果

取組みの目標となる、関係拠点が連携し資源を活用しながら人材育成に取り組むための要件を明らかにするために、各取組みの位置づけが明確になった。

ESDプログラム意見交換会：主要な拠点のもつプログラムを相互参照する機会となって拠点同士が連携できる点を明らかにする。

若者ワークショップ：ユースの視点を活かした政策提案の場をとおして、人材育成に求められるESDプログラムとして要点を整理する。

水俣学習ヒアリング：水俣学習に取り組む教員等のニーズや課題などを把握することで、人材育成の基本的な要件整理とし、ESDプログラムのモデルを検討する。

プログラム検討：水俣でのESD学習活動のモデルを検討することで、地域ぐるみでのESD推進に必要な要件を明らかにする。

各施設のプログラム情報交換、ワークショップ、学びのヒアリングなどの個別の取組をふまえ、ESDプログラムの企画検討を進めた。また、環境センターによるエコロジストリーダー養成講座へのESDに関する内容の導入など、今後の取組の拡大について議論がなされた。ワークショップでの意見交換の成果として、大学生より、若者を巻き込む手法として、若者を対象としたエコツアーの企画、企画イベントにおけるボランティアの募集

(ボランティアバスなど)、観光面と連携した魅力の発信などが提案された。

一方、教員の学びの場として研修プログラム化できないかとの提案もあったことから、各施設への期待やニーズをふまえ、施設ごとのプログラムのブラッシュアップや熊本県環境センター、水俣病資料館、水俣環境アカデミアなどの地域拠点の連携強化が図れるよう、関係構築をサポートしていきたい。

ヒアリングにより得られた成果

- 水俣学習において、現地を見て、当事者から話を聞くことの意義は大きい。
- 身近な生活課題につながる様々な社会の課題、歴史がつながっている（平和学習の場合、歴史的な大きさは確かにあるが、現在の生活実感を生徒にもってもらおう工夫が相当程度必要）。
- 生活につながる環境課題は生徒の改善や提案によって、家庭や地域で少しずつ変えていくなどの事後活動につなげやすい。
- 指導する側の知見、教材づくりが大変だが、教員の研修先としても水俣地域は様々な形で受け入れてくれる。

目標に対する成果

関係拠点が連携し資源を活用しながら人材育成に取り組むための要件について、次の点が明らかとなった。

- 地域の関係拠点が保有するプログラム、人材、施設についての強み、主題、メッセージを相互に把握する機会を持続的に持つ（担当者が交代した場合でも情報が共有される状態を作る）。
- 新たな活力として、高校生や大学生などの若者を巻き込むことで、各拠点の持つ特性やプログラムのアップデートが行われる（児童・生徒対象からユース対象プログラムへの強化）。
- 関係拠点が役割分担して取り組むプログラムを共有することで、協働した人材育成が促進される。

一方、課題として、参加受講者や見学者に ESD の考え方が直接的に共有されるには至っていない。

水俣学習が環境学習と人権学習の両面から取り組むなど、ESD として特徴的であることを各拠点が積極的に発信できるような関係者間の理解を深める必要がある。

■日南市子育て支援センター ことこと

協働プラットフォームメンバー

所属・役職	氏名
みやざきアートセンター（運営：NPO）	緒方 由紀子
日南市こども課	森山 佐知江
都城西高校教諭（宮崎県高校生文化連盟）	串間 弥生
宮崎大学 教育学部教授	藤元 嘉安
宮崎県 環境森林部 みやざきスギ活用推進室	外山 賢
(株)内田洋行（パワープレイス特命部長）	若杉 浩一
(株)良品計画	小山 裕介

取組内容

昨年の反省を受け、学校側の負担が重ならないようあらかじめスケジュールを調整した活動計画により、具体的な支援活動（高校生木育デザインプロジェクト）が始まった。デザイナー（内田洋行、良品計画）の参画についても、高校生を巻き込んだプロジェクトへの関心の高さと地域づくり・人づくりとして理解いただき、継続していただくこととなった。第1回ワークショップでの飴肥杉を扱う現場視察やデザイナーのプレゼンを受け、高校生たちが企画提案をしていく段階に入った。

また、大牟田市で行われた「地域ESD学びあいフォーラム」では、子育て支援センターことことの事例を紹介し、取組の特徴や教育関係者からの期待に、拠点としての自負や自信を促す機会となった。

なお、12月3日に宮崎市内で行われる木育・森育楽会から参加協力のオファーが来ている。

今期は、具体的な支援活動である「高校生木育デザインプロジェクト」が本格化し、高校生と支援する多様なステークホルダーとのやり取りが見られた。

また、本事業を契機として、宮崎にて「第3回木育・森育楽会」が開催され、ESD拠点支援事業をとおした高校生の木育デザインプロジェクトについて、全国からの参加者に紹介されている。

評価会議の日程調整を行い、評価会議を実施。取組の総括と成果の取りまとめ、次年度についての話し合いを行った。

GEOCの藤本氏を迎え、評価会議では、本年度の活動に至る宮崎での2年間の取組が紹介され、これまでの成果と見えてきた課題について協議した。

月日、場所	取組内容
5月25日 電話・メール	本年度について関係者に打診、日程調整
6月15日 電話・メール	高校文化連盟への協力要請および調整
6月22日 電話・メール	プロジェクト企画書の共有、7/15第1回ワークショップの概要共有

6月30日 みやざきアートセンター	第1回プラットフォーム（高校生木育デザインプロジェクト協議会）会議。参加者6名。 全体スケジュールの了承、高校側との日程すり合わせおよび高文連、県環境森林課スギ活用推進室の協力を得、第1回ワークショップに向けて内容を協議。
7月15日 日南市子育て支援センター「ことこと」、創客創人センター	地場産業の振興とESD推進を図る、高校生木育デザインプロジェクト第1回ワークショップを開催。 プラットフォームメンバーの南那珂森林組合関係者より飼肥杉の紹介・製材体験、「ことこと」の所長から施設の目的や昨年の取組作品の紹介、デザイナーからは職業選択の経緯やデザイン現場のきびしさ・やりがいなどが語られた。これを受け、今後高校生たちが企画提案をしていく予定（10月）。 この様子は、テレビ宮崎にて当日夕方放映され、後日宮崎日日新聞にも掲載された。
7月23日 みやざきアートセンター	日南市こども課職員、子育て支援センター「ことこと」所長と、本年度の目標や今後のスケジュール等の確認を行った。
8月23日 ホテルニューグايا オームタガーデン（大牟田市）	地域ESD学びあいフォーラムにて、日南市子育て支援センター「ことこと」が拠点となり、高校生木育デザインプロジェクトをとおし林業の振興と人材育成に取り組んでいることや日南市の子育て支援施設としての取組の事例紹介がなされた。 大牟田市副市長から視察の打診があった（11月頃の予定）。
10月9日 みやざきNPO・協働支援センター	高校生木育デザインプロジェクトワークショップ2を開催。高校生5グループが企画を発表、アドバイスを受け企画やデザインを再考し、次回のプレゼンへ導いた。 終了後、第2回推進会議を開催。参加15名。これまでの効果と課題の整理を行なった。高校生の視野が広がったとの報告と共に、今後県内の高校教育関係者は高文連全国大会等を控え協力の時間が取れないとの課題が出た。また、予定していた次回会議（11/19評価会議）は、メンバーの本業の都合で延期となったことが伝達された。多様なSHでいかにESD活動への参画を継続するか今後検討することが確認された。 合わせて、日南市こども課・子育て支援センター職員へのヒアリングを行い、地域ESD学びあいフォーラムへの参加により、教育界からの支持で自信を得たり、視察へと関係者との繋がりが出来たことがわかった。
12月3日 みやざきアートセンター	高校生木育デザインプロジェクト参加5グループによる企画と試作のプレゼンが行われた。 また、同会場にて行われた「第3回木育・森育楽会」の分科会にて、宮崎県の取組として「高校生木育デザインプロジェクト」が紹介された。同様に、日南市子育て支援センター「ことこと」も別の分科会にて開設前後の事例紹介がなされた。
2月12日 みやざきアートセンター	評価会議の開催。出席者8名。 これまでの経過報告後、本年度の評価と次年度からについて話し合いが持たれた。 生徒を直接デザイナーに触れさせたいとの高校の先生の声に始まり、拠点となり得る日南の新施設と関係を結び、昨年からのESD拠点事業をとおし、木材産業に関わる関係者、教育者、官、民がネットワークでつながり高校生のESD活動を支援した総括、および事業後も継続できる形について検討がなされた。

成果

県外の遠隔地から協働フォーラムのメンバーを参集することができた。地場産業への協力（南那珂森林組合の現場視察・製材体験の場の提供、飼肥杉の資料提供・説明）、デザイナーとの連携により、今年の活動、目標について共通認識が出来た。

8月の「地域 ESD 学びあいフォーラム」にて、子育て支援センター「ことこと」の所長に事例発表をしてもらったことで、拠点としての意識の高まりや、教育関係者との接触で活動への自負が高まったのではないかと思われる。

地域の問題解決と参加体験型の ESD 手法*を取り入れた高校生への木育デザインプロジェクトでは、高校生の視野が広がったり、グループでの話し合いや作業、大人との関わりを通して、コミュニケーション能力が高まりやお互いに学びあう姿がみられた。提案された積木系おもちゃも、市場にない発想や日南市に寄り添った案などクオリティーが高かった。

また、日南市の子育て支援センター「ことこと」では、地域と繋がることを参考にワークショップ開催などを行われた。利用実績も目標を超えており（12/24 来場者3万人）、視察も増えている（11 末時点 205 件、約3千人）。

12月3日の「第3回木育・森育楽会」は、宮崎での「高校生の木育デザインプロジェクト」活動が誘致要因のひとつとなっており、分科会では ESD 拠点支援事業をとおした高校生の木育デザインプロジェクトが全国からの参加者に紹介された。楽会では、函館での大学生・専門学校生対象の木育プロジェクトも報告され、宮崎県内での地元の素材を使っただけの若者とのコラボレーションが他地域でも関心を持たれて、活動のモデルとなりつつある。活動を広げていく上での課題（先生方の負担感、移動に係る経費負担など）はあるが、宮崎の高校生を軸とした ESD 活動として広げることができた。

*自治体や組合の協力を得ての現場体験（林業組合視察・体験、子育て支援センター視察、こどもの観察など）、製品化へのプロボノ協力（高校生へのワークショップ、試作へのアドバイス・制作協力、デザイン・プレゼン審査など）

目標に対する成果

行政も民間も含め一つのことに向う協議会ができたことは、今後の大きな柱になり、木を通じて世代間のつながりが持てことは成果の一つである。

企業や専門家のステークホルダーとして、高校生のキャリア形成に関わることは、社会貢献であると同時に地域に根差したネットワークへの参画窓口となる。こうした点が魅力となって、積極的な関りを引き出せたと言える。

参加した高校生には、人とのつながりや人へのアプローチなど、ものづくり以上の大事な部分に関心が高まる変化が見られた。とくに、宮崎工業高校では、高校生と SH や木材産業の方々との連携が進み、デザイン会社や地元の木材産業への就職希望も出ている。

また、本取組のアウトカムとして、デザイナーを通し、函館にて大学生・専門学校生の木育デザインの取組として波及している。

OESD 実践拠点支援事業 成果共有会

期 日：平成30年2月27日（火）

会 場：GEOC（東京都渋谷区）

出席者：33名

全国の EPO とアドバイザーが出席し、成果共有会議が開催された。各 EPO の担当者より、拠点の変容や伴走支援の内容をふまえた活動報告が行われた。また、各アドバイザーより、拠点の価値やポテンシャルについてコメントがなされた。

② ESD 推進に向けたビジターセンター意見交換会の開催

○ビジターセンター等との連携

環境省自然系拠点との連携強化、また ESD 推進取組の一つとして、ビジターセンターとの連携を図った。

九州・沖縄に 8 か所ある環境省直轄ビジターセンターと連携し、EPO 九州メールマガジンの配信を行った（計 3 回）。

打ち合わせ等の実施状況

月日、場所	内容
4 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、えびのエコミュージアム
5 月 16 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、えびのエコミュージアム
6 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、漫湖水鳥湿地センター
7 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、漫湖水鳥湿地センター、やんばる野生生物保護センター
8 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、漫湖水鳥湿地センター、やんばる野生生物保護センター、西表野生生物保護センター
9 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、漫湖水鳥湿地センター、西表野生生物保護センター
10 月 14 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、えびのエコミュージアムセンター、漫湖水鳥湿地センター、やんばる野生生物保護センター、黒島ビジターセンター
11 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、やんばる野生生物保護センター、黒島ビジターセンター
12 月 15 日	メールマガジンの配信。 協力施設：九十九島ビジターセンター、雲仙諏訪の池ビジターセンター、長者原ビジターセンター、阿蘇草原保全活動センター 草原学習館、えびのエコミュージアムセンター、漫湖水鳥湿地センター、

○ビジターセンター意見交換会の開催

ESD ネットワーク推進に向けた九州管内のビジターセンターとの関係促進、ESD 拠点登録のための理解促進、および博物館等との連携推進等を目的として、ビジターセンター意見交換会を開催した。

平成 29 年度は重富海岸自然ふれあい館・桜島ビジターセンターの両会場で意見交換会を実施した。

1 日目は、くすの木自然館による取組紹介と専門機関連携についての報告が行われ、各ビジターセンターでの活動に関して職員間で議論が行われた。また ESD についての基本的な考え方についても EPO 九州から説明を行い、すでに実施している活動の中でどのような点が ESD に当たるのかについてセッションを実施した。

2 日目は桜島ビジターセンターに会場を移し、NPO 法人桜島ミュージアムの福島代表より、センターの観光分野への取組について紹介が行われた。

先進的な取組についての知見を高める契機になっただけでなく、施設間の職員交流が促進された意見交換会となった。なお、意見交換会に関する事後アンケートの集計結果や議事要旨等については、年度報告書に掲載する。

期 日：平成 29 年 12 月 18 日（月）～19 日（火）

会 場：重富海岸自然ふれあい館 なぎさミュージアム（鹿児島県始良市）
桜島ビジターセンター（鹿児島県鹿児島市）

参加者：23 名



ワークショップの様子



桜島ビジターセンター見学の様子

打ち合わせ等の実施状況

月日、場所	内容
11月2日 重富海岸自然ふれあい館	NPO 法人くすの木自然館の浜本代表と意見交換会の内容について打合せ。桜島ビジターセンター訪問をプログラムに導入する方向で検討を行った。
11月2日 雲仙諏訪の池ビジターセンター	運営委員を務める大向委員と企画に関する打合せ。企画の趣旨説明を行うとともに、議題などについて要望を伺った。

○自然体験施設ネットワーク交流会・研修会

期 日：平成 29 年 7 月 4 日（火）～5 日（水）

会 場：えびのエコミュージアムセンター（宮崎県えびの市末永）

参加者：12 名（8 施設）

自然体験施設を中心に、九州地域のビジターセンター等のスタッフが参加して行われる研修会に参加し、ESD 推進に向けた取り組み状況等について把握した。また、7 月に開設した九州地方 ESD 活動支援センターを紹介。今後の協力もお願いした。

ビジターセンターによる ESD 推進に関する取組み

- ・来場者への環境学習の提供
- ・生き物調査など専門的な関りによる地域への情報提供
- ・研修会等をとおしたビジターセンター間のネットワーク形成

なお、意見交換会開催について、開催時期を 11 月～12 月のうち、平日での開催。内容については、ESD そのものについての理解促進、観光面での連携や専門機関との連携についての情報交換などについてのニーズを把握した。

期 日：平成 30 年 2 月 7 日（水）～8 日（木）

会 場：雲仙諏訪の池ビジターセンター（雲仙市）

参加者：17 名（11 施設）

自然体験施設を中心に、九州地域のビジターセンター等のスタッフが参加して行われる研修会に参加。

ESD 拠点支援センター開設の周知および ESD 拠点支援登録、島しょ地域 ESD 交流会の紹介等を行った。

また、研修では、冬期プログラム「五感を使ったアクティビティ」について検討した。



③ 高校生による環境政策ワークショップの開催

環境政策に係る企画提案の支援として、ユースの視点から「若者の持続可能な社会づくりへの参加」をテーマとして、意見交換・ワークショップを開催した。

開催にあたり、ESD 推進拠点支援事業と連携した企画を検討し、熊本県立水俣高校との調整を進めていたが、SGH 指定校としての授業計画等により、学校全体としてのスケジュール調整が困難との申し出があったため、熊本大学環境安全センターをとおして環境政策等に関心の高い研究室を紹介いただき、大学生を対象としたワークショップを企画・実施することとなった。

当日は、隣接する水俣病資料館、水俣病情報センターの見学・ガイドプログラムの体験を行い、あわせて熊本県環境センターの展示や学習内容について解説を受けた。

その後のワークショップでは、それらの情報・インプットをふまえ、環境センターの展示等についての印象やメッセージについての感想を共有した。また、若者に関心を持ってもらい、啓発につながるための工夫やアイデアとして、若者を対象としたエコツアーの企画や大学生ボランティアの募集などの提案がなされた。

環境センターとしても、日ごろ接点の少ない若者との意見交換をとおして、見落としがちだった魅力発信やボランティア連携などの視点を獲得する機会となった。

期 日：平成 29 年 12 月 17 日（日）

会 場：熊本県環境センター、水俣病資料館および水俣病情報センター（水俣市）

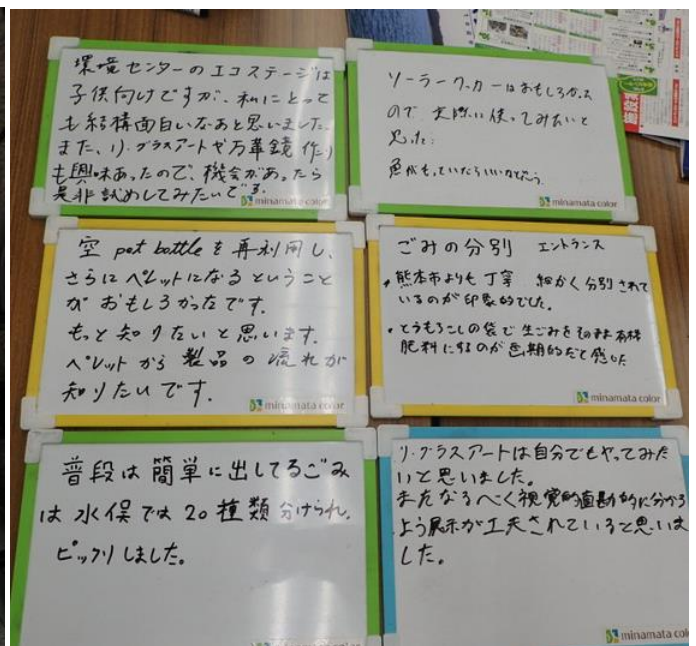
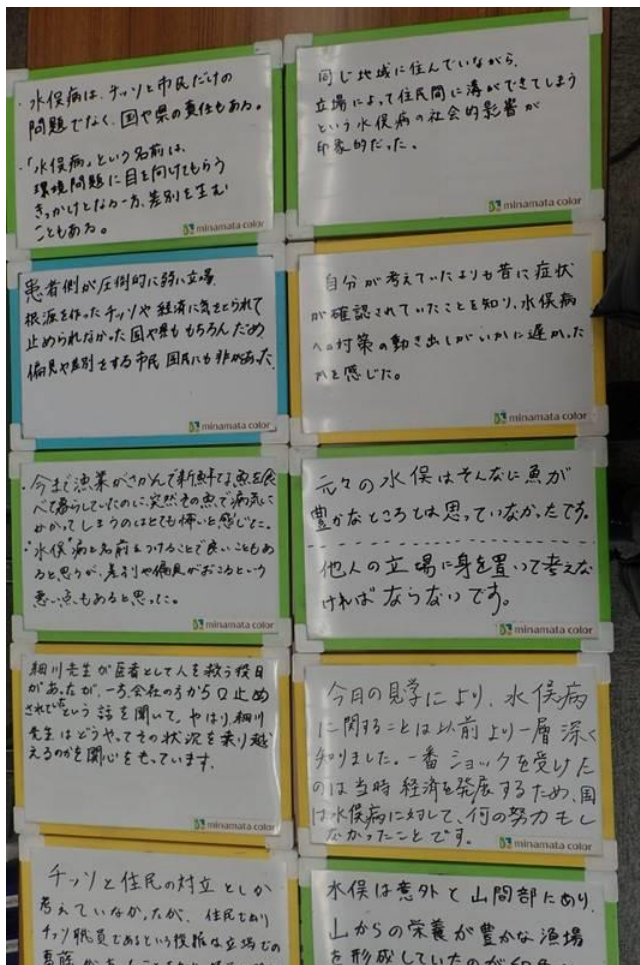
参加者：14 名（うち大学生 10 名）



ワークショップの様子



フィールドワークの様子



④ 九州環境教育ミーティングの共催

九州・沖縄地方における環境教育およびESDを推進するため、ステークホルダーと協力し、九州環境教育ミーティングを共催する。

なお、共催にあたっては、実行委員会に参加するとともに、参加団体等へESD推進ネットワークを周知し、地域ESD推進拠点への登録を呼びかけた。

期 日：平成30年2月3日（土）～4日（日）

会 場：火の国ハイツ（熊本市東区）

開催地域：熊本市内および益城町、美里町、御船町他

対象者等：環境教育・ESD従事者、関係主体など20団体

主 催：九州環境教育ミーティング

熊本県内外より参加者が集まり、「自然災害と生きるための環境教育」をテーマに、話題提供と意見交換が行われた。ワークショップでは、「正しく伝える」「ボランティア」「コミュニティ」「ツールとしてのフットパス」「昔からの知恵」「SDGsと環境教育」の6つのテーマに分かれて意見交換を行い、自然災害と生きるための環境教育について理解を深める機会となった。

成果と課題

実行委員会への参画ならびにミーティングの開催をとおして、持続社会の観点である防災について環境教育・ESDの視点からテーマ（地域の伝統文化・地名の継承、平時のネットワーク、環境教育による防災意識形成）が深められた。

あわせて、地域ESD拠点についての情報提供をとおして、地域の環境教育ネットワークとしても主要な自然学校拠点の登録先が把握された。

九州自然学校協議会等において会員等に周知いただくことになっている。

一方で、このミーティングをとおして事業者や若者の参加を募り、ネットワークを広げることが課題として認識されており、次回大会に向けて学生の参加を促進させる工夫を強化する必要がある。

実行委員

実行委員	所属等
内田 安弘	西原村
井澤 るり子	フットパス研究所
濱田 孝正	フットパス研究所
小川 聡	田舎の体験交流館さんがうら
田村 耕作	(有)クラバード
土居 元	土居 自然学校
望月 克哉	波野高原やすらぎ交流館
玉置 理那	NPO 法人森人くらぶ
加悦 典子	グラノ24K
澤 克彦	EPO九州
勝家 伸男	EPO九州
矢野 博巳	とりかぶと自然学校
星 直樹	会社員
宮崎 高虎	(社)アイ・オー・イー
朝倉 和紀	九重ふるさと自然学校

打ち合わせ等の実施状況

月日、場所	内容
4月24日 フットパス研究所（下益城郡美里町）	事務局会議。熊本大会の開催に向け、地域協力者を交え、企画検討を行った。
5月26日 フットパス研究所（下益城郡美里町）	事務局会議。実行委員会の主要メンバと地域協力者による協議を行い、実施時期や活動場所、協力者の呼びかけ等について検討を行った。
6月22日、23日 分元の森かじか（下益城郡美里町）	実行委員会。実行委員と地域メンバーの顔合わせ、分科会候補となるテーマ紹介などの意見交換。エクスカーションとして、会場候補地を数か所見学した。
8月30日 始良市内 2名	事務局打合せ。熊本大会の開催に向け、分科会候補となる活動地域やテーマ等について検討を行った。
9月1日～2日 火の国ハイツ（熊本市東区） 10名	実行委員会を開催し企画検討を行った。 今回は、自然災害と環境教育の視点から、熊本地震の当事者となった環境教育関係者のネットワーク型の支援活動や日ごろからの環境教育の重要性について意見交換する場として開催することが確認された。 2日目午前、被災地域である西原村を訪問し、実行委員でもある内田副村長による案内と解説を受けた。
10月27日 エミナース（益城町）	実行委員会を開催。大会テーマや具体的なプログラム、全体スケジュール等の検討を行うとともに、開催日や会場の決定を行った。
10月28日 益城町、西原村	益城町と西原村の視察を行い、エクスカーションの流れや受入れにあたっての役割分担等の検討を行った。
12月15日 熊本市国際交流会館	企画会議を開催。実行委員会の役員や事務局メンバーを中心に、当日までのスケジュールやチラシの準備、広報、運営体制などを協議し、実施に向けた準備を進めた。

(5) 外部資金の活用による協働促進

持続可能な社会づくりに向けた協働取組を担う民間団体等の育成に向けて、地球環境基金や民間企業等と連携し組織運営や資金獲得に向けた助言等を行う。

基金団体等からの外部資金（EPO九州運営業務以外の契約業務扱い）を活用した取組として実施する。

①Green Gift 地球元気プログラムへの協力

東京海上日動火災保険株式会社が日本NPOセンターと連携し、地域での環境保全活動を支援する取組「Green Gift 地球元気プログラム」について、企画協力や活動広報および活動当日の運営サポート等の支援業務を行う。また、EPO九州としては、九州・沖縄地域の多様な環境保全活動について、企業による地域活動のマッチング支援をとおして、各県の活動団体の基盤強化ならびに地域ならではの取組のアピールを図る。

「グリーンギフト地球元気プログラム」の実施団体

（実施期間：2016年10月～2019年9月）

県	実施団体
熊本県	NPO 法人みずのとら BELL 隊（2013年度実施団体）
大分県	NPO 法人 ABC 野外教育センター（新規団体）
宮崎県	NPO 法人大淀川流域ネットワーク（2014年度実施団体）



「Green Gift 地球元気プログラム」とは

東京海上日動の「Green Gift」プロジェクトの一環として実施する国内環境保護活動。日本NPOセンターが主体となり、東京海上日動と国内各地の環境NPOが協力して、主に子どもたちを対象とした環境保護活動を各地で展開しています。環境保護に関する体験活動を通じて、子どもたちが身近なところから環境について考えるきっかけを持つことにより、持続可能な社会が実現することを目指しています。





○熊本県プロジェクト

実施団体：NPO 法人みずのとら BELL 隊

取組状況

月日、場所	取組内容
5月30日 東京海上熊本支店	3者による事前会議。6月10日実施予定のプログラムについて、参加者の申込み状況や当日までのスケジュールの確認を行うとともに、イベント当日の役割分担や安全管理体制について協議・確認を行った。
7月25日 東京海上熊本支店	3者による企画会議。9月10日実施予定の第2回プログラムについて、活動内容や当日までの役割分担等の確認を行った。
9月5日 東京海上熊本支店	3者による事前打合せ。参加者の申込み状況や当日までのスケジュールの確認を行うとともに、イベント当日の役割分担や安全管理体制について協議・確認を行った。
10月4日 東京海上熊本支店	支店担当者、実施団体、EPO九州の3者による年間ふりかえり会議。「年間ふりかえりシート」にもとづき、運営面、安全面、協働面について、ふりかえりを行った。また、支店担当者より、次年度は八代や天草方面の支店と連携したプログラムを企画できないかとの提案があり、支店間のネットワーク構築も視野に、企画を検討することとなった。

第1回実施プログラム

実施日：平成29年6月10日（土）

プログラム：自然の中で木と楽しむ一日

場所：御船町立滝尾小学校（熊本県上益城郡）

参加人数：46名（うちスタッフ17名）

滝尾小学校では熊本地震の影響で校舎を利用することができず、約8か月間、御船中学校の校舎を間借りして授業を行っていた。また、現在も道路等の復旧が遅れているなど生活面での不便・不安があることから、復興支援の取組として、滝尾小学校の児童とその保護者を対象に実施することとなった。

熊本県での1回目となるプログラムが開催された。開会式終了後、参加者は班ごとに分かれて、ツリーイングと秘密基地づくりの活動を交互に行った。ツリーイングとはロープを使用して行う新感覚の木登りで、講師からの注意事項を聞いた後、さっそくヘルメットやハーネスなどを身につけ、ツリーイングに挑戦した。一方、秘密基地づくりのグループは、ビニールシートやロープ、園芸用の支柱、木の枝など、身近なものを使って、秘密基地づくりを行った。

今回のプログラムでは、小学校のシンボルツリーともいえるクスノキでのツリーイングや友だちとの活動をとおして、木と友だちになるとともにリラックス・リフレッシュする貴重な機会となった。



第2回実施プログラム

実施日：平成29年9月10日（日）

プログラム：Eボートで川の観察ツアーと簡単な水質調査体験

場所：リバーパーク 鯨の学校（熊本県嘉島町）

参加人数：28名（うちスタッフ13名）

開会式終了後、パドルの漕ぎ方や注意事項の説明を受けた後、3艇のボートに分かれて乗船し、川の観察や水質テストのための採水を行った。講師より、絶滅危惧種のヒラモヤコウホネ、特定外来種のブラジルチドメグサやナガエツルノゲイトウなどの水草の説明を受けた。水質パックテストでは①加勢川の源流である江津湖の水、②江津湖と加勢川の合流地点の水、③加勢川の水の3種類の水のきれいさを測る実験をし、水がいかに汚れやすいか、そして水を汚さないために自分に何ができるのかということを一人心をこめて考えた。

今回の体験活動をとおして、水や自然環境の大切さを実感するとともに、毎日の生活の中で環境を意識する貴重な機会となった。



○大分県プロジェクト

実施団体：NPO 法人 ABC 野外教育センター

取組状況

月日、場所	取組内容
5月10日 東京海上大分支店	3者による事前会議。5月21日のプログラムに向け、参加者の申込み状況や当日までのスケジュールの確認を行うとともに、イベント当日の役割分担や安全管理体制について協議・確認を行った。
5月20日 東京海上大分支店	実施団体、日本NPOセンター担当者との下見打合せを行い、フィールドの安全確認と当日の役割分担、緊急時の連絡体制等の確認を行った。
6月29日 団体事務所	2者による打合せ。年間振り返り日程の調整や次年度の活動プログラムについて、開催場所や活動内容の検討を行った。
6月29日 東京海上大分支店	3者による事前会議。7月16日のプログラムに向け、参加者の申込み状況や当日までのスケジュールの確認を行うとともに、イベント当日の役割分担や安全管理体制について協議・確認を行った。
7月15日 東京海上大分支店	実施団体担当者との下見打合せを行い、フィールドの安全確認と当日の役割分担、緊急時の連絡体制等の確認を行った。
10月3日 東京海上大分支店	支店担当者、実施団体、EPO九州の3者による年間ふりかえり会議。「年間ふりかえりシート」にもとづき、運営面、安全面、協働面について、ふりかえりを行った。次年度は開催地の住民との交流や地域貢献をより意識したプログラムとなるよう企画検討を進めることとなった。

第1回実施プログラム

実施日：平成29年5月21日（日）

プログラム：おおいたネイチャーキッズエコアクション1

場所：住吉浜リゾートパーク（大分県杵築市）

参加人数：55名（うちスタッフ8名）

国の天然記念物カブトガニも生息する杵築市の守江湾で、豊かな海を守るため、ビーチでの清掃活動を行いながら自然観察を行い、集めた貝殻や流木などを使ってフォトフレームづくりを行った。ビーチの清掃活動の合間には、講師の先生より、貝殻の種類や海草、海の生きものなどについて解説が行われた。また、ゴミの中には、大陸から流れてきたと思われる漂着物もあり、ゴミが国境を越えて移動していることなどを教わった。



フォトフレームづくりでは、段ボールからフレームを切り出し、集めた貝殻やシーグラス、マスキングテープなどを使いながら、世界に一つだけのフォトフレームを作った。一日のプログラムをとおして、守江湾の自然の豊かさそこに暮らすさまざまな生きもの不思議さや大切さを、楽しみながら学ぶことができた活動となった。

第2回実施プログラム

実施日：平成29年7月16日（日）

プログラム：おおいたネイチャーキッズエコアクション2

場所：ふるさと体験村（大分県豊後大野市）

参加人数：40名（うちスタッフ6名）

自然豊かな「ふるさと体験村」で、竹の器と箸づくり、ソーメン流し、魚のつかみ取りなどの夏ならではの活動を行った。竹の器と箸づくりでは、小刀の使い方も教わりながら、親子で協力して作成を行った。続いて、人工プールに放流されたヤマメとウナギのつかみ取りに挑戦。最後はお楽しみのソーメン流し。自分で作った器と箸で食べると、味わいも格別で、賑やかな昼食タイムとなった。



一日の活動をとおして、昔懐かしいふるさとの生活体験を学び、また、魚のつかみ取りにチャレンジすることで、「命の大切さ」を感じてもらおう機会となった。

○宮崎県プロジェクト

実施団体：NPO 法人大淀川流域ネットワーク

取組状況

月日、場所	取組内容
5月8日(月) 東京海上日動宮崎支店8F会議室	6月3日の第1回プログラム「北川に学ぶ洪水対策とホテル観賞」について、関係者全体での最終打ち合わせ、および第2回プログラムの確認と説明担当者の紹介を行った。当日の役割、駐車場・開会式スペースの事前確保について、今年のホテルの出現地点と時間帯の下見の確認などを協議し共有した。
5月30日(火) 宮崎市民プラザ3F市民活動センター 会議室コーナー	3者による第1回プログラムの開催事前会議。駐車場誘導にパウチパネルを用意。下見の報告(ホテル情報駐車場・開会式スペース)後、見学地およびバスの経路について地図と航空写真で最終確認、スタッフ配置と各担務の確認を行った。
9月19日(火) 東京海上日動宮崎支店8F会議室	2016年度のプログラム「北川に学ぶ洪水対策とホテル観賞」「大淀川の魚たちとウナギつかみ」について、関係者で集り振り返り会議を行った。 また、同日2017年度第1回プログラム「いのちの授業と水質調査」について、第1回企画会議を行った。参加を2地域から一部参集すること、タイトルの一部修正が決議された。
10月28日	2017年第1回プログラム「いのちの授業と水質調査」を予定していたが、台風のため開催中止。翌日を予備日としていたが、安全面を考慮し延期とした。
11月10日 東京海上宮崎支店	延期となった2017年度第1回プログラム「いのちの授業と水質調査」について、変更日決定(11/25)に伴う企画会議。実施に向けたスケジュールや担当の確認などを行った。参加者の確認では、宮崎からの2グループが辞退につき、若干名の追加募集を行う。また、10月28日に参加した「Green Gift 全国振り返り会議」について、大淀川流域ネットワークより報告があり、関係者に情報共有がなされた。

第1回実施プログラム

実施日：平成29年6月3日（土）

プログラム：北川に学ぶ洪水対策とホタル観賞

場所：家田霞堤、家田湿原、ホタルの館（宮崎県延岡市北川町）

参加人数：69名（うちスタッフ11名）

第1回プログラムは、宮崎市と延岡市の2ヶ所から、各バス1台に分乗し、子どもと保護者約25名ずつを迎えた洪水防災が主眼のプログラム。

北川町家田地区は、洪水をある程度受け入れる霞堤を保持している地区。霞堤のシステムや洪水時の様子が、延岡土木事務所および住民の方から語られ、この霞堤という洪水対策の手法が、環境保護や生物多様性に寄与していることが主催団体より紹介された。延岡からの参加者でも知らなかったと、子どもだけでなく大人たちの関心も高かった。

ホタルの館では、参加者の交流を兼ねた見学の振り返りやホタルの生態を学習。川辺でのゲンジボタル鑑賞に子どもたちの歓声が響いた。豊かな自然の体験と生活と防災との両立を学んだ1日となった。

広報においては、NHKの取材が入り、前半のプログラムがタ方の地域ニュースで放映。当日のプログラムの様子は、地元紙朝刊にて紹介された。



第2回実施プログラム

実施日：平成29年7月22日（土）

プログラム：大淀川の魚たちとウナギつかみ

場所：国土交通省 宮崎河川国道事務所 別館、天満橋下 大淀川（宮崎県宮崎市）

参加人数：50名（うちスタッフ11名）

第2回プログラムは、宮崎市内にて開催。まず、宮崎河川国道事務所別館にて、大淀川の魚たちについて上流部・中流・下流部で生息環境等の違いによりいろいろな魚がいること、アカメなどの絶滅が心配されている魚もいることを学習。水辺の安全学習と交流会を行った後、天満橋下に移動して、大淀川にウナギを放流。その後、ウナギつかみ体験と宮崎内水面漁業協同組合さんによるウナギのさばき方実演も行われた。

河川での活動に、座学で学んだ水辺の安全学習や交流会が活かされ、また子どもたちにとっては、実際に大淀川に入って稚魚の放流やウナギを自分で取ったという体験が、大淀川の豊かな自然を忘れないものになった。



2017年度

第1回実施プログラム

実施日：平成29年11月25日（土）

プログラム：いのちの授業と水質調査

場所：しゃくなげの森、下沖水橋下流河川敷、都城市中央公民館
（宮崎県都城市、三股町）

参加人数：参加58名（うちスタッフ16名）

2017年度第1回プログラムは、宮崎市と都城市の2都市から参加者を募り、交流会までをプログラムとした。各々バス1台に乗車し、三股町のしゃくなげの森にて合流。開会式とプログラムの前半「いのちの授業」および沖水川上流での水質調査が行われた。

台風による開催時期の延期で川辺は少し寒かったが、環境カウンセラーの講師の協力で、上流域の清流でしか経験できないヤマメの採卵・人工授精、孵化の様子を見学できた。子供たちはヤマメのつかみ取りにも参加し、昼食でヤマメを食す一連の経験をとおり、命をいただいて生きていることを学んでいた。

沖水川下流での水質調査では、上流との差があまりなく、大淀川の支流である都城市内を流れる沖水川の水のきれいさが確認された。この後、水に牛乳3滴を落として汚染検査では、たった3滴が及ぼす変化に子どもたちは驚き、川を汚さぬためには食べ物を残さないことも大切だと気づいた。

命や水環境のつながりを実感すると共に、日常生活が環境に及ぼす影響を知る機会となっていた。

○全国振り返り会議への参加

「Green Gift 地球元気プログラム 2016-2017 年間振り返り全国会議」として、全国で活動する20の実施団体32名と、全国のEPOスタッフ、東京海上経営企画部社員を始めとした関係者による会議に出席した。

まず、（一社）コクリエーションデザインの平田裕之氏より、プログラム参加者へのアンケート結果が報告された。プログラムへの満足度、参加後の意識の変化、主催団体への関心について述べられた。

その後実施団体・EPOスタッフが共にグループワークに取組み、事前作成のシートを元に「3つのギフトを実現するために」とのテーマで、議論と共有が行われた。

期日：平成29年10月18日（水）

会場：東京海上日動ビル（東京都）

参加者：約70名

九州・沖縄ブロックからの参加団体：

【2017年度実施団体】

NPO法人みずのとらBELL隊（熊本県）

NPO法人ABC野外教育センター（大分県）

NPO法人大淀川流域ネットワーク（宮崎県）



2016年度プログラム実施実績一覧（期間：2016年10月～2017年9月）

	実施日	参加者数	うち関係者数
熊本	第1回：6月10日（土）	46名	17名
	第2回：9月10日（日）	28名	13名
大分	第1回：5月21日（日）	55名	8名
	第2回：7月16日（日）	40名	6名
宮崎	第1回：6月3日（土）	59名	11名
	第2回：7月22日（土）	50名	11名
	合計	278名	66名

取組と成果

2016年度グリーンギフトプロジェクトにおいて、3県での活動が終了した。のべ6回のプログラムの企画・運営のサポートを行い、企業とNPOによる協働プロジェクトの支援を行った。なお、総参加者数は278名。

熊本県プロジェクトにおいては、熊本地震からの復興支援の一環として、御船町の小学校での活動を実施した。開催にあたり、小学校やPTAと連携することで、実施団体と地域関係者とのコミュニケーションが進み、ネットワーク強化や地域活性化につながる活動となった。

大分県プロジェクトにおいては、地域の活動団体と連携することで、プログラム内容や安全管理体制が充実するとともに、ネットワークを形成・拡大する機会となった。

宮崎県プロジェクトにおいては、平成28年12月に、東京海上日動火災保険、宮崎県、大淀川流域ネットワークでGreen Gift地球元気プログラムについて協定（「環境保護および環境教育の促進にかかる包括協定書」）が交わされおき、エリアを越えたプログラムが立てやすかったり行政からの参加・協力が得やすかったりとステークホルダーの充実や活動の安定に効果が出ている。

実施団体ごとに「年間ふりかえりシート」にもとづき、ふりかえり会議を行い、協働取組による意識やモチベーションの変化、およびプログラム実施に係る意見交換を行うことで、関係主体の協働への意識向上を促す機会となった。また、企画・運営に係る課題については対策や改善点を協議し、次年度の計画へフィードバックするなど、PDCAサイクルを実践することで、3者による連携体制を強化することができた。

熊本県プロジェクトにおいては、支店担当者より、社内でのプロジェクトに対する認知や理解が進み、地域のために何かしたいという社員の意識向上を促す機会となり、当日参加を希望する社員が増加しているとの報告があった。

大分県プロジェクトにおいては、地域の協力団体より、地域外から参加者が来ることで地域活性化につながっている、という反応もあり、地域住民にとってもインパクトのある活動であったことが確認された。

宮崎県プロジェクトにおいては、関係者間で県庁所在地と他地域からの参集を企画したプログラムが好評で、今後も可能な折は行っていくことが確認された。また、3者協定（東京海上日動火災保険、宮崎県、大淀川流域ネットワーク）のおかげで活動エリアの選定や協力要請等がスムーズに行え、主催団体の活動の幅が広がったことが報告された。

②地球環境基金との連携

地球環境基金において、地方 EPO との意見交換会が開催された。具体的な連携企画として、地球環境基金主催の平成 30 年度地球環境基金助成金説明会および第 3 回全国ユース環境活動発表大会地区審査会の開催を行うことが合意された。開催に向けて、地球環境基金担当者との日程調整および会場手配等を行った。

地球環境基金との協定に基づき、地球環境基金主催の平成 30 年度地球環境基金助成金説明会および第 3 回全国ユース環境活動発表大会地区審査会をそれぞれ宮崎市、熊本市にて開催した。

地球環境基金との意見交換会

期 日：平 29 年 8 月 2 日（金）

会 場：ミュージアム川崎セントラルタワー（神奈川県川崎市）

参加者：32 名

地球環境基金と全国の EPO を交え、平成 30 年度助成金説明会の開催、および第 3 回全国ユース環境活動発表大会地区審査会の開催等について意見交換がなされた。

なお、九州ブロックにおいては、助成金説明会を宮崎市内、ユース地区審査会を熊本市内にて開催する予定である。

助成金説明会の開催

期 日：平成 29 年 11 月 8 日（金） 18:30~20:50

会 場：みやざき NPO・協働支援センター（宮崎市）

参加者：18 名 / 11 団体（スタッフ 2 名を除く）



当日の様子

取組と成果

平成 30 年度地球環境基金についての説明、質疑応答が行われた。また、ワークシートを用いた“要望書の書き方”のワークショップでは、各団体の活動について話し合いが必要な点が洗い出される結果となり、参加者より参考になったとの好評を得た。

個別相談では、宮崎県内の活動団体がとらえている環境課題（河川環境保全、環境啓発活動）についての活動企画をもとに助言を行い、活動づくりを促進させた。

宮崎県外からの参加団体もあり、意欲的な取組内容（SGDs 人材育成、ESD に関するプラットフォーム形成等）が把握された。

第3回全国ユース環境活動発表大会地区審査会の開催

期 日：平成29年11月20日（月）14:00～16:30

会 場：熊本市国際交流会館（熊本市）

審査結果：

	高校名	活動名
出場校	佐賀県立佐賀商業高等学校	さが学美舎
次点	沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科 動物コース	命の授業 ひまわりプロジェクト

審査委員として、（社）九州環境地域づくり 代表理事 澤 克彦、NPO 法人くすの木自然館 専務理事 浜本 麦の2名が委嘱された。

取組と成果

全国からの応募総数100校（昨年度96校）のうち、九州・沖縄地区の応募数は12校（昨年度17校）であり、3名の審査委員により全12校を対象に審査を行った。評価の視点の一つとして、①ユースとして取組む環境活動、②活動の広がりを論点に、意見交換をとおして審査を進め、出場校と次点の選出を行った。

今回、応募校数による割り当てが1校であったが、地区審査対象校で見た場合、12校に1校の割合であり、他ブロックに比べて著しく対象割合が低いものとなっていることから、各ブロック2校以上の参加ができるよう、提案していきたい。また、本大会に係る情報発信、およびユースの環境活動に係る情報収集については、ネットワークを活用して取組みたい。

(6) EPO 九州の維持管理

EPO九州の維持管理にあたって、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等に差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

運営業務の実施にあたっては、九州地方環境事務所担当官と定例会議を開催し、業務進捗の管理を行う。

① 定例会議の開催

概ね月に1回、担当官、運営スタッフ、運営団体による定例会議を開催する。定例会議においては、運営全般に関する事項、個別事業に関する事項の他、円滑な運営に必要な事項を協議する。また、その他必要な事項についてはスタッフミーティングや個別打合せを行い対応した。

【運営定例会議の主な議題】

回	月日	主な議題と検討内容
1	4 18	1 EPO運営事業の確認 (1) 持続可能な社会の実現に向けた協働取組の支援 ・協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) (2) 環境教育・ESD取組の支援 ・ESD実践拠点支援事業 ・協力・依頼案件 (3) EPO九州の各種取組等の発信 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (4) 運営体制 ・運営委員会 2 地方支援センター設置準備委員会 ・開設準備 ・全国センターとの連携状況 3 関連事業の確認 ・グリーンギフトプロジェクト
2	5 18	1 EPO運営事業の確認 (1) 持続可能な社会の実現に向けた協働取組の支援 ・協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) (2) 環境教育・ESD取組の支援 ・ESD実践拠点支援事業 ・協力・依頼案件 (3) EPO九州の各種取組等の発信 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (4) 運営体制 ・運営委員会 2 地方支援センター設置準備委員会 (1) 開設準備 (2) 企画運営委員会 (3) ESD活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (4) 全国センターとの連携状況 3 関連事業の確認 ・グリーンギフトプロジェクト

回	月日	主な議題と検討内容
3	6 1 6	<p>1 EPO運営事業の確認</p> <p>(1) 持続可能な社会の実現に向けた協働取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働取組加速化事業 (連絡会開催、進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) <p>(2) 環境教育・ESD取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD実践拠点支援事業 ・協力・依頼案件 <p>(3) EPO九州の各種取組等の発信 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定)</p> <p>(4) 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 <p>2 地方支援センター設置準備委員会</p> <p>(1) 開設準備</p> <p>(2) 企画運営委員会</p> <p>(3) ESD活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進</p> <p>(4) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンギフトプロジェクト
4	7 2 7	<p>1 EPO運営事業の確認</p> <p>(1) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定)</p> <p>(2) 多様な協働取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) <p>(3) 地域ぐるみのESD推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD実践拠点支援事業 ・運営委員会 <p>(4) 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 <p>2 地方センター運営業務</p> <p>(1) 開設準備</p> <p>(2) 企画運営委員会</p> <p>(3) ESD活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進</p> <p>(4) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グリーンギフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) ・地球環境基金との連携
5	8 1 7	<p>1 EPO運営事業の確認</p> <p>(1) 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 <p>(2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定)</p> <p>(3) 多様な協働取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) <p>(4) 地域ぐるみのESD推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD実践拠点支援事業 <p>(5) 協力・依頼案件</p> <p>2 地方センター運営業務</p>

回	月日	主な議題と検討内容
		<p>(1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認 ・グリーンギフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) ・地球環境基金との連携</p>
6	9 26	<p>1 EPO運営事業の確認 (1) 運営体制 ・運営委員会 (2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (3) 多様な協働取組の促進 ・協働取組加速化事業 (進捗状況、9月の予定、協働事業進行上の課題、EPO の伴走支援・中間支援) (4) 地域ぐるみのESD推進 ・ESD 実践拠点支援事業 (5) 協力・依頼案件</p> <p>2 地方センター運営業務 (1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認 ・グリーンギフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) ・地球環境基金との連携</p>
7	10 27	<p>1 EPO運営事業の確認 (1) 運営体制 (2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (3) 多様な協働取組の促進 ・協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPO の伴走支援・中間支援) (4) 地域ぐるみのESD推進 ・ESD 実践拠点支援事業 ・運営委員会 (5) 協力・依頼案件</p> <p>2 地方センター運営業務 (1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認 ・グリーンギフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) ・地球環境基金との連携</p>
8	11 28	<p>1 EPO運営事業の確認 (1) 運営体制 ・運営委員会 (2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (3) 多様な協働取組の促進</p>

回	月日	主な議題と検討内容
		<ul style="list-style-type: none"> • 協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPO の伴走支援・中間支援) (4) 地域ぐるみのESD推進 <ul style="list-style-type: none"> • ESD 実践拠点支援事業 (5) 協力・依頼案件 2 地方センター運営業務 <ul style="list-style-type: none"> (1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況 3 関連事業の確認 <ul style="list-style-type: none"> • グリーングフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) • 地球環境基金との連携
9	12 22	<ul style="list-style-type: none"> 1 EPO運営事業の確認 <ul style="list-style-type: none"> (1) 運営体制 <ul style="list-style-type: none"> • 運営委員会 • 評価委員会 (2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (3) 多様な協働取組の促進 • 協働取組加速化事業 (進捗状況、9月の予定、協働事業進行上の課題、EPO の伴走支援・中間支援) (4) 地域ぐるみのESD推進 <ul style="list-style-type: none"> • ESD 実践拠点支援事業 (5) 協力・依頼案件 2 地方センター運営業務 <ul style="list-style-type: none"> (1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況 3 関連事業の確認 <ul style="list-style-type: none"> • グリーングフトプロジェクト (進捗状況、今後の予定) • 地球環境基金との連携
10	11 18	<ul style="list-style-type: none"> 1 EPO運営事業の確認 <ul style="list-style-type: none"> (1) 運営体制 <ul style="list-style-type: none"> • 運営委員会 • 評価委員会 (2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定) (3) 多様な協働取組の促進 • 協働取組加速化事業 (進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPO の伴走支援・中間支援) (4) 地域ぐるみのESD推進 <ul style="list-style-type: none"> • ESD 実践拠点支援事業 (5) 協力・依頼案件 2 地方センター運営業務 <ul style="list-style-type: none"> (1) 企画運営委員会 (2) ESD 活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進 (3) 全国センターとの連携状況 3 関連事業の確認 <ul style="list-style-type: none"> • グリーングフトプロジェクト

回	月日	主な議題と検討内容
		<ul style="list-style-type: none"> 地球環境基金との連携
1 1	2 2 0	<p>1 EPO運営事業の確認</p> <p>(1) 運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営委員会 評価委員会 <p>(2) ニーズに基づいた発信強化 (前回定例会以降の取組結果、今後の予定)</p> <p>(3) 多様な協働取組の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働取組加速化事業(進捗状況、今後の予定、協働事業進行上の課題、EPOの伴走支援・中間支援) <p>(4) 地域ぐるみのESD推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ESD実践拠点支援事業 <p>(5) 協力・依頼案件</p> <p>2 地方センター運営業務</p> <p>(1) 企画運営委員会</p> <p>(2) ESD活動のネットワーク形成、学びあいの場の促進</p> <p>(3) 全国センターとの連携状況</p> <p>3 関連事業の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> グリーンギフトプロジェクト(進捗状況、今後の予定)
1 2	3 2 7	平成30年度運営業務について

【相談対応等の状況】

相談対応については、対応カルテを作成し相談者への対応等について記録を残した。

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
4/1	環境教室企画	熊本県	EPO九州	環境教室の企画に係る相談対応、助言
4/4	IOEへ訪問	熊本県	IOE事務所	九州環境教育ミーティングの熊本開催に係る打合せ
4/13	加速化事業ヒアリング	熊本県	地方事務所	加速化事業ヒアリング(4団体)
4/14	温暖化防止ネット(佐賀)橋本理事長来所	熊本県	EPO九州	今年度事業の企画連携等に係る相談
4/6	くまもと温暖化対策センター	熊本県	EPO九州	今年度温対センターが開催するセミナーへの講師協力に係る打合せ
4/6	加速化事業、今年度EPO九州運営業務	熊本県	地方事務所	加速化事業、今年度EPO九州運営業務に係る打合せ
4/7	ESD拠点支援事業	宮崎県	日南市子育て支援センター	日南市子育て支援センター内覧会、関係者への協力依頼
4/7	ESD拠点支援事業	宮崎県	宮崎文化本舗	ESD拠点支援事業に係る関係者打合せ
4/8	ESD拠点支援事業	宮崎県	日南市子育て支援センター	日南市子育て支援センターオープンセレモニー、関係者への協力依頼
4/10	ESD地方センター、EPO全国事業関連	東京都	GEOC	ESD地方センター、EPO全国事業に係る打合せ
4/11	ESD地方センター、EPO全国事業関連	東京都	GEOC	ESD地方センター、EPO全国事業に係る打合せ
4/14	アースウィークくまもと実行委員会	熊本県	熊本学園大学	アースウィーク実行委員会(開催前の最終打ち合わせ)
4/14	くまもと温暖化対策センター宮原氏来所	熊本県	EPO九州	ファンレイジングセミナー等に係る相談

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
4/15	K I BOWプロジェクト	熊本県	グランメッセ	復興支援に関する活動企画プレゼンテーションプログラムの聴講
4/15	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン4月ビジターセンター版の配信
4/17	加速化事業ヒアリング	熊本県	地方事務所	加速化事業ヒアリング（1団体）
4/18	加速化事業電話ヒアリング	熊本県	EPO九州	おきなわGN電話ヒアリング
4/18	第1回定例会議	熊本県	地方事務所	加速化事業案件を中心に、ESD拠点支援事業等について打合せ
4/21	ESD委員会吉津委員挨拶	熊本県	(公財)肥後の水とみどりの愛護基金事務所	地方ESDセンター企画運営委員会委員への協力依頼
4/22	SDGsワークショップ	熊本県	JICA	SDGsワークショップへの参加
4/22	会館インターン対応	熊本県	国際交流会館	国際交流会館のインターン生に対するEPO九州の取組内容紹介
4/24	九州環境教育ミーティング	熊本県	フットパス研究所	九州環境教育ミーティング 熊本大会に向けた事務局打合せ
4/26	第1回ESDセンター連絡会	東京都	GEOC	地方ESDセンターの開所に向けた進捗状況の共有と今後の取組に係る意見交換
4/29	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン4月通常版の配信
5/2	ESD拠点支援事業（北九州）	福岡県	北九州まなびとステーション	ESD拠点支援事業に係る関係者打合せ
5/2	大牟田市教育委員会打合せ	福岡県	大牟田市教育委員会	ESD地方センターとの連携事業に係る打合せ
5/8	グリーンギフト宮崎	宮崎県	東京海上宮崎支店	グリーンギフト総元気プログラム 第1回・第2回 関係者打合せ
5/9	熊本県環境センターリニューアル委員会	熊本県	熊本県環境センター	熊本県環境センターリニューアル委員会および運営委員会に係る打合せ
5/10	グリーンギフト大分	大分県	東京海上大分支店	5月21日の第1回プログラムに向けた事前打合せ
5/12	加速化事業 審査会準備	長崎県	長崎大学	加速化事業審査会に向け、山口先生と事前打合せ
5/12	地方センター挨拶	長崎県	長崎県庁	県環境部署、県教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
5/16	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン5月ビジターセンター版の配信
5/17	加速化事業 審査会	福岡県	福岡合同庁舎	加速化事業審査会を開催し、採択候補案件を選出
5/17	地方センター挨拶	福岡県	福岡市役所、福岡県庁	県（市）環境部署、県（市）教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
5/18	第2回定例会議	熊本県	地方事務所	加速化事業、ESD拠点支援事業、ESD地方センター開所準備等について打合せ
5/20	グリーンギフト大分	大分県	住吉浜リゾートパーク	事前打合せ、会場下見
5/22	地域環境ネットワーク訪問	大分県	地域環境ネットワーク	EPO九州運営委員の委員委嘱にあたり、大分県の担当部署について相談
5/22	EPO九州運営委員就任依頼	大分県	大分県庁	EPO九州運営委員の就任について協力依頼
5/23	地球環境教室企画打合せ	熊本県	EPO九州	地球環境教室企画打合せ
5/25	宮崎文化本舗総会	宮崎県	みやざきNPO・協働支援センター	宮崎文化本舗総会への出席
5/26	EPO九州運営委員就任依頼	宮崎県	宮崎放送	EPO九州運営委員の就任について協力依頼
5/26	地方センター挨拶	佐賀県	佐賀県庁	県環境部署、県教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
5/26	地方センター挨拶	長崎県	国立諫早青少年自然の家	所長、次長への地方センター開所の挨拶、協力依頼
5/26	九州環境教育ミーティング	熊本県	フットパス研究所	K E E M熊本に向けた事務局打合せ
5/30	グリーンギフト熊本	熊本県	東京海上熊本支店	第1回プログラムにむけた事前打合せ
5/30	グリーンギフト宮崎	宮崎県	宮崎市民活動センター	グリーンギフト地球元気プログラム 第1回プログラム（北川）打合せ
5/31	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン5月通常版の配信

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
6/1	地方センター挨拶	熊本県	国立阿蘇青少年交流の家	所長、事業担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/1	地方センター挨拶	大分県	大分県庁	県環境部署、県教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/2	地方センター挨拶	福岡県	JICA 九州	事業担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/2	地方センター挨拶	福岡県	北九州市役所	市環境部署、市教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/2	ダイナックス研究所 エココンヒアリング	熊本県	EPO 九州	大学生の環境活動を表彰する取組エココンに関するヒアリング対応
6/2	ESD 拠点支援事業（北九州）	福岡県	まなびとステーション	今年度事業の活動内容やスケジュール、協働プラットフォーム等について打合せ
6/3	温暖化防止活動推進センター推進員研修会	熊本県	くまもと温暖化対策センター	温暖化防止活動推進センター推進員研修会での話題提供
6/3	地方センター開所準備	熊本県	EPO 九州	熊本市国際交流会館担当者と地方センター開所に係る打合せ
6/5	地方センター挨拶	宮崎県	宮崎県庁	県環境部署、県教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/5	地方センター挨拶	鹿児島県	鹿児島県庁	県環境部署、県教育委員会の担当者への地方センター開所の挨拶、協力依頼
6/5	温暖化センター打合せ	宮崎県	宮崎県庁	温暖化防止活動推進センター推進員研修に係る打合せ
6/6	一般社団法人CEPAジャパン打合せ	東京都	関東 EPO	生物多様性の普及啓発について、CEPA 担当者と打合せ
6/7	全国EPO連絡会議	東京都	GEOC	全国EPO連絡会議への出席
6/7	全労済 審査会	福岡県	全労済モルティ天神ビル	全労済助成事業西日本ブロック審査会での審査協力
6/7	ESD 拠点支援事業	東京都	GEOC	ESD 実践拠点全国アドバイザー会議へのオブザーバー参加
6/9	尚綱中学校グリーンフラッグ認定証授与式	熊本県	尚綱中学校	同校のグリーンフラッグ認定証授与式への出席
6/15	第1回 運営委員会	熊本県	地方事務所	EPO 九州の運営方針や事業内容等について協議
6/15	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	メールマガジン6月ビジターセンター版の配信
6/16	定例会議	熊本県	地方事務所	
6/21	水俣高校 春木先生 打合せ	熊本県	水俣高校	ESD 拠点支援事業についての説明と協力依頼。
6/22	KEEM実行委員会（～23）	熊本県	元気の森 かじか	2018年開催のプログラムについての検討と意見交換。
6/22	ESD 拠点支援事業（北九州）	福岡県	まなびとステーション	第1回推進会議
6/28	熊本県温暖化研修	熊本県	熊本県庁	熊本県地球温暖化防止活動推進員を対象とした研修会に講師として話題提供。
6/29	グリーンギフト熊本	大分県	東京海上大分支店	第2回プログラム事前打合せ
6/30	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	メールマガジン6月通常版の配信
7/3	政策協働の手引き編集会議	東京都	GEOC	手引きの対象者やハンドブックとの差別化、掲載事業等について検討
7/4	自然体験施設ネットワーク研修会	宮崎県	えびのエコミュージアムセンター	
7/11	大牟田市教育委員会訪問、打合せ	福岡県	大牟田市教育委員会	ESD 研修会や学びあいフォーラムの連携企画打合せ
7/12	熊本県温暖化研修	熊本県	八代地域振興局	EPO 九州やESD センターの取組およびSDGs やESD について紹介
7/12	福島環境再生事務所 みちさがしプログラム参加	福島県	福島県内各所	避難解除地域を含む、被災地域での復興活動等を視察し意見交換。
7/14	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	メールマガジンビジターセンター関連
7/15	グリーンギフト大分 下見	大分県	ふるさと体験村	現地下見、打合せ

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
7/15	高校生木育デザインプロジェクトWS1	宮崎県	南那珂森林組合、日南市子育て支援センター ことこと他	
7/17	RQ九州会議	熊本県	元気の森 かじか	熊本地震復興支援をふまえ、今後の活動について意見交換。
7/22	グリーンギフト宮崎	宮崎県	東京海上宮崎支店	第2回プログラム 大淀川の魚とうなぎ
7/22	CEPA 宮本氏来所	熊本県	EPO九州	一般への生物多様性・いきものみつけに関する周知パンフについて打合せ
7/23	第1回プラットフォーム会議フォローアップ	宮崎県	みやざきアートセンター	日南市こども課との3者協議（企画内容のフォローアップ）
7/25	グリーンギフト熊本 企画会議	熊本県	東京海上熊本支店	企画会議
7/27	定例会議	熊本県	地方事務所	加速化事業やESD拠点支援事業、学びあいフォーラム等の進捗共有
7/28	第1回環境講座	熊本県	肥後の里山ギャラリー	阿蘇くじゅう国立公園の保護と利用の概要
7/28	熊本大学 環境監査委員会	熊本県	熊本大学	熊本大学の平成28年度の環境マネジメントに関する監査。
7/29	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン7月通常版の配信
8/4	第1回地球温暖化に関する九州カンファレンス	熊本県	熊本地方合同庁舎	気候変動対策に係るCOP21や緩和策等についてのセミナー出席
8/4	組織評価センター杉田様対応	熊本県	EPO九州	組織評価センターの取組紹介と今後の連携依頼
8/8	出水南中学校 神田様 来所	熊本県	EPO九州	地方ESDセンターや九州におけるESD取組について相談対応
8/9	ESDセンター打合せ	熊本県	地方事務所	地方ESDセンターの今後の活動予定等について協議
8/9	環境アカデミア訪問	熊本県	環境アカデミア	9月30日のシンポジウムについて打合せ
8/17	メルマガ配信（VC版）	熊本県	EPO九州	メールマガジンVC版配信
8/17	定例会議	熊本県	地方事務所	加速化事業やESD拠点支援事業、学びあいフォーラム等の進捗共有
8/29	人権協議会 会議	熊本県	熊本市国際交流会館	29年度の企画活動についての検討
8/30	地方センター運営、KEEM事務局打合せ	鹿児島県	始良市内	運営委員会、実行委員会の経過報告と企画検討
9/2	KEEM実行委員会	熊本県	火の国ハイツ	西原村を視察し、プログラム連携を検討。
9/5	グリーンギフト熊本 事前打合せ	熊本県	東京海上熊本支店	9月10日のイベントのスケジュール、安全管理体制等の確認
9/7	協働取組フォーラム 打合せ	福岡県	六門	協働取組フォーラムの企画内容や大学との連携等について検討
9/7	協働取組フォーラム 打合せ	福岡県	久留米大学天神サテライト	協働取組フォーラムの企画内容や大学との連携等について検討
9/7	福岡県立城南高校訪問	福岡県	城南高校	SSHとして取組むESD活動や講演会の講師等に係る相談対応
9/14	大牟田市教育委員会訪問、打合せ・インタビュー	福岡県	大牟田市教育委員会	ESD研修会ふりかえりと12月の全国大会にむけた連携相談、インタビュー
9/15	メルマガVC版配信	熊本県	EPO九州	メールマガジンVC版配信
9/20	政策協働の手引き編集会議	東京都	GEOC	協働の手引き編集会議。マルチステークホルダーについて担当内容を確認。
9/21	地方事務所打合せ	熊本県	地方事務所	個別企画プログラムについて打合せ
9/26	定例会議	熊本県	地方事務所	
9/27	若者による政策提案WS企画打合せ	熊本県	熊本大学環境安全センター	学生を巻き込んだ政策提案の場づくりについて意見交換。
9/29	内閣府 休眠預金制度公聴会	福岡県	合同庁舎	休眠預金を活用した取組みについての説明会
9/30	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	メールマガジン9月通常版配信
10/3	グリーンギフト大分ふりかえり会議	大分県	東京海上大分支店	大分市にて実施活動についてのふりかえりと今後の予定について確認

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
10/3	熊本市内環境活動団体との連絡調整会議	熊本県	西部環境工場	熊本市内の環境活動団体による情報交換。温暖化対策センターによる企画活動。
10/4	グリーンギフト熊本ふりかえり会議	熊本県	東京海上熊本支店	熊本市にて実施活動についてのふりかえりと今後の予定について確認
10/4	環境パートナーシップ研修講師	埼玉県	環境調査研究所	環境パートナーシップに関する自治体職員対象の研修にて、指導助言。～6日まで。
10/6	肥後と水とみどりの愛護基金 環境講座	熊本県	肥後の里山ギャラリー	情報収集の一環として環境講座に参加した。
10/9	第2回 協議会（高校生ワークショップ含）	宮崎県	みやざきNPO・協働支援センター	高校生による木育デザインワークショップと拠点支援推進会議
10/10	ESD北九州打ち合わせ	福岡県	まなびとESDステーション	マイプロスタートアップ合宿の内容や企業の参画要因等について打合せ
10/10	第2回 ESD活動支援センター連絡会	東京都	ESD-J事務局	ESD 支援センターの活動方針、目標設定等について意見交換。拠点登録、後援手続き等について確認を行った。
10/12	第2回 EPO 連絡会議	愛知県	ウイंकあいち、四日市市公舎と環境未来館	名古屋市にて各 EPO 参加の下、各事業について検討と共有 ～14日まで。 四日市市で実践されている協働について各 SH による活動報告。 中部地域の活動団体とのエクスカージョン。
10/14	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	ビジターセンター版発行
10/17	環境指定管理打ち合わせ	熊本県	EPO 九州	熊本県環境センター指定管理についての審査会打合せ。
10/18	協働取組第2回作業部会	東京都	日本NPOセンター	協働ハンドブックの掲載2事例の選定とギャザリングの企画について協議。
10/18	白書を読む会	福岡県	北九州まなびとESDステーション	ESD 活動支援センターの紹介を行った。
10/19	環境センター指定管理審査会	熊本県	熊本県環境センター	熊本県環境センター指定管理者 審査会
10/20	神戸 甲南女子校 事前学習	兵庫県	甲南女子校	ESD 推進拠点支援の一環でのヒアリング。
10/23	沖縄県地域環境センター訪問	沖縄県	沖縄県地域環境センター	沖縄地域 ESD 交流会に関連して挨拶訪問。
10/24	3R全国大会	沖縄県	沖縄コンベンションセンター	3R 推進についての啓発プログラム。全国アドバイザー委員の鬼沢氏と打合せ。
10/25	熊本県教育委員会 土肥先生 打合せ	熊本県	熊本県庁	ESD 推進拠点支援の一環として、水俣学習の取組みの情報収集と意見交換。
10/25	人権 企画コンペ	熊本県	熊本市国際交流会館	記念事業に関する企画運営者の選定。
10/25	よそもの会	熊本県	田中商店	水俣地域での活動づくりについての意見交換会に参加し、話題提供を行った。
10/26	環不知火プランニング教育旅行プログラムサポート	熊本県	環境アカデミア	研修旅行プログラムについて同行し、水俣学習の展開を視察。
10/26	ESD北九州FAISヒアリング	福岡県	(公財)北九州産業学術推進機構	マイプロに参画した経緯や社会人としてマイプロジェクトに係るメリット等についてヒアリング。
10/27	定例会議	熊本県	地方事務所	地方事務所・EPO 参加による情報共有と進捗確認
10/27	KEEM 実行委員会	熊本県	エミナース	九州環境教育ミーティング実行委員会として、企画内容の検討と現地視察。
10/28	SDGs 学習会	熊本県	くまもと未来ネット事務所	SDGs に係る勉強会に参加し、活動情報の収集や参加者の把握を行った。
10/28	SDGs に係る相対対応	熊本県	EPO 九州	SDGs の普及啓発活動について問い合わせ。
10/30	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
11/1	協働取組フォーラムへの協力依頼	福岡県	久留米市役所	協働取組フォーラムへの登壇依頼のため新産業創出支援課を訪問。
11/1	協働取組フォーラムの企画打合せ	福岡県	グリーンシティ福岡	協働取組フォーラムの企画について、加速化事業審査委員の志賀理事と打合せ。
11/1	協働取組フォーラムへの協力依頼	福岡県	福岡市役所	協働取組フォーラムへの登壇依頼のため広域地域振興課を訪問。
11/1	福岡県立城南高校訪問	福岡県	城南高校	ESD 活動支援センターの相談対応として、城南高校でのESD 講演会参加。
11/2	VC意見交換会の企画打合せ	長崎県	諏訪の池VC	VC 意見交換会の企画について、VC 担当者と協議。また企画についての要望を伺った。
11/2	くすの木自然館VC意見交換打合せ	鹿児島県	くすの木自然館	12月実施の意見交換会について、次第・内容を検討。
11/2	協働取組フォーラムへの協力依頼	鹿児島県	霧島市役所	12月実施のフォーラムについて参加の依頼と内容の説明。

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
11/2	協働取組フォーラムへの協力依頼	長崎県	雲仙市役所	協働取組フォーラムへの登壇依頼のため環境政策課を訪問。
11/4	情報収集	熊本県	グローバルスマイルジャパン	SDGsのワークショップ参加
11/8	ソーシャルビジネスに係る相談対応	福岡県	電話	熊本県内でのソーシャルビジネスの活動団体についての問合せ。団体の情報提供を行った。
11/9	協働取組フォーラムの企画打合せ	福岡県	筑後川流域連携会議	団体事務所を訪問し、フォーラムでの発表内容やパネルディスカッション等について確認打合せ。
11/9	協働取組フォーラムの企画打合せ	福岡県	グリーンシティ福岡	団体事務所を訪問し、フォーラムでの発表内容やパネルディスカッション等について確認打合せ。
11/9	協働取組フォーラムへの広報協力依頼	福岡県	福岡市役所	協働取組フォーラムへの広報協力依頼のため市民局コミュニティ推進部市民公益活動推進課を訪問。
11/10	グリーンギフト宮崎企画会議	宮崎県	東京海上宮崎支店	10月に中止となった企画について11月下旬実施で計画を打合せ。
11/14	熊本県環境センタープログラム意見交換会	熊本県	熊本県環境センター	実際の見学プログラム見学後、参加者から感想・アドバイス検討。
11/14	SDGsに係る相談対応	熊本県	EPO九州	熊本県内のSDGsの取組について相談があり、対応。
11/15	メルマガ配信VC版	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
11/15	佐賀商業高校訪問	佐賀県	佐賀商業高校	環境活動に熱心に取組む高校として、指導教諭へのヒアリング。
11/15	佐賀 ヒアリング	佐賀県	成瀬中学校	水俣学習に取組む私立中学の活動や取組をヒアリング。
11/16	福岡 ヒアリング	福岡県	二日市中学校	水俣学習に取組む公立中学の活動や取組をヒアリング。
11/16	ESD北九州第2回推進会議	福岡県	北九州まなびとESDステーション	マイプロの進捗状況や企業へのヒアリング内容の共有、および企業のESD活動への参画を促す要因について、意見交換を行った。
11/17	環境教育担当者会議	東京都	スタンダード会議室虎ノ門ヒルズフロント店	環境教育を所管する自治体担当者への政策説明。オブザーバー同席。
11/20	ユース活動九州地区審査会	熊本県	熊本市国際交流会館	地球環境基金によるユース活動ネットワークの活動審査会。
11/20	ESD交流会企画相談	沖縄県	沖縄県地域環境センター	ESD交流会への参加打診、また会場利用について相談。
11/21	加速化事業 活動視察	沖縄県	恩納村漁港地	加速化事業審査委員とともに、漁協と連携した植栽活動を視察。
11/21	基金 大木さん打合せ	熊本県	EPO九州	SDGsに関して、若者の活動ネットワークと連携した取組みの相談。
11/22	協働取組フォーラムの企画打合せ	沖縄県	沖縄県庁	営農支援課を訪問し、フォーラムでの発表内容やパネルディスカッション等について確認打合せ。
11/22	ESD交流会企画相談	沖縄県	琉球大学	ESD交流会の企画内容について、大島先生と打合せ。また、参加候補団体を紹介いただいた。
11/24	佐賀商業高校 REO来所同席	熊本県	地方事務所	佐賀商業高校での佐賀市や企業等と連携した活動内容について意見交換。
11/24	熊本大学教養講座	熊本県	熊本大学	講義内において12月実施のパスハイクについて学生に発信。
11/24	NPO法人CANPUS担当者来所	熊本県	EPO九州	大学生と地域住民による連携活動について、企画相談。
11/24	ESD全国フォーラム	東京都	立教大学 池袋キャンパス	ESD推進ネットワークによるフォーラム。地域事例や専門家による情報交換。九州センターとしても展示。
11/28	定例会議	熊本県	地方事務所	地方事務所・EPO参加による情報共有と進捗確認
11/29	人権会議	熊本県	熊本市国際交流会館	事業計画、記念事業の企画等について検討。
11/30	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
12/1	ユネスコスクール全国大会 公開授業	福岡県	大牟田市立吉野小学校	小学1年生～6年生までの各クラスでの公開授業。小学5年生の「守ろう環境！白銀川・隈川探検隊」の授業に参加。
12/1	熊本県沿岸地域再生官民連携フォーラム	熊本県	熊本テルサ	沿岸域連携を目的としたフォーラム発足に伴う総会と講演会へ出席。
12/2	ユネスコスクール全国大会	福岡県	大牟田文化会館	ユネスコスクール全国大会に参加。
12/2	ESD交流会企画相談・関係者顔合わせ	福岡県	大牟田文化会館	沖縄県教育委員会職員や沖縄県のユネスコスクール関係者と顔合わせ。ESD交流会の企画説明と参加依頼を行った。
12/3	第3回木育・森育学会 in 宮崎	宮崎県	みやざきアートセンター	高校生木育デザインプロジェクト参加5グループによる企画と試作のプレゼンが行われた。
12/4	協働取組フォーラムの企画打合せ	長崎県	長崎大学	フォーラムの企画やパネルディスカッション等について、山口先生と打合せ。

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
12/5	GEOC手引き編集会議	東京都	GEOC	協働取組の成果を取りまとめる手引きの編集会議に出席。
12/5	ESD やSDGsに係る問い合わせ	熊本県	EPO九州	SDGs や ESD の概要、および大牟田市での ESD やユネスコスクールの取組を紹介。
12/5	企業からの相談対応	東京都	メール	企業が取組む CSR 活動について、受入団体の状況提供依頼。先方の要望等を把握。
12/5	NPO からの相談対応	熊本県	EPO九州	大学生の社会貢献活動について相談対応。2名来所。
12/6	大学関係者からの相談対応	熊本県	EPO九州	熊本大学の環境監査について相談対応。2名来所。
12/14	協働取組フォーラム	福岡県	エルガーラオフィス	採択団体の活動紹介やパネルディスカッション等をおして、民間と行政が協働するためのノウハウや工夫を共有・発信。
12/15	KEEM打合せ会議	熊本県	熊本市国際交流会館	熊本での KEEM 開催に向けた企画調整会議。
12/15	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
12/19	SDGsに係る相談対応	熊本県	EPO九州	SDGs の普及活動に係る問い合わせ。
12/17	環境政策ハスハイク	熊本県	熊本県環境センター他	コースを対象として、水俣市の各施設を訪問・ワークショップ実施。
12/18	ビジターセンター意見交換会	鹿児島県	重富海岸自然ふれあい館	九州内のビジターセンターが参加し、取組について情報共有。
12/19	ビジターセンター意見交換会	鹿児島県	重富海岸自然ふれあい館	桜島ミュージアムの取組についてセッション。及び移動日。
12/21	熊本市環境審議会	熊本県	熊本市役所	熊本市環境審議会に出席し、審議事項の検討を行った。
12/22	定例会議	熊本県	地方事務所	地方事務所・EPO 参加による情報共有と進捗確認。
12/27	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
1/10	人権協議会 池上彰氏 30周年記念講演会	熊本県	熊本市市民会館	熊本市人権啓発市民協議会主催。池上氏を講師とする「防災を人権の観点から考える」をテーマとした講演会に参加。
1/11	熊本市SDGs研修打合せ	熊本県	熊本市役所	熊本市と企画するSDGs研修について内容を検討。
1/12	熊本大学 山口先生来所	熊本県	EPO九州	平成30年度のESDを採り入れたカリキュラムについて相談と意見交換。
1/15	川久保先生打合せ	東京都	法政大学	熊本市と企画する2月のSDGs研修について講師の川久保准教授と打合せ。
1/15	GEOC 打合せ	東京都	GEOC	次年度事業に向けた意見交換。
1/16	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
1/16	第3回 全国EPO連絡会議	東京都	GEOC	ESD 支援センターの活動方針、目標設定等について意見交換。拠点登録、後援手続き等について確認を行った。
1/17	第3回 全国ESD活動支援センター連絡会	東京都	GEOC	東京都 GEOC において各事業について検討と共有。
1/18	定例会議	熊本県	地方事務所	地方事務所・EPO 参加による情報共有と進捗確認
1/19	ESD 北九州打合せ	福岡県	北九州ESDまなびとステーション	マイプロの進捗状況や企業へのヒアリング内容の共有、および企業の ESD 活動への参画を促す要因について、意見交換を行った。
1/19	大分県「地域とともにある学校づくり」推進協議会	大分県		大分県が取組を進める学校と地域が連携したコミュニティ・スクール推進に係るフォーラムへ参加。
1/23	ESD 実践校 第2回研修会	長崎県	対馬市立厳原北小学校	今年度の小中学校での ESD の実践内容と成果を共有する対馬市教育委員会研修会へ参加。
1/25	ESD 北九州評価会議	福岡県	北九州ESDまなびとステーション	ESD 実践拠点支援事業について評価会議。
1/26	グリーンギフト宮崎企画会議	宮崎県	東京海上 宮崎支店	第2回プログラムの実施内容について検討を行った。
1/27	九州ソーシャルビジネスサポートネットワークフォーラム in 熊本	熊本県	日本政策金融公庫熊本支店中小企業事業	九州ソーシャルビジネスサポートネットワーク主催の起業、および企業支援に関心のある方対象のフォーラム形式のビジネスセミナー。熊本県内で企業後、地域おこしや創業支援の業務に携わった起業家達からの情報提供。
1/29	熊本市環境審議会	熊本県	熊本市役所	熊本市環境審議会委員として出席し、審議事項の検討を行った。
1/29	人権企画委員会	熊本県		平成30年度の協議会活動について意見交換を行った。
1/31	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
2/2	KEEM実行委員会	熊本県	火の国ハイツ	翌日から実施の熊本大会について、プログラムの確認、今年度報告書の作成方針について実行委員間で検討を行った。
2/5	ギャザリング打合せ	沖縄県	OGN事務所	協働ギャザリングでの報告、進め方についての打合せ。

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
2/5	アースウィーク運営委員会	熊本県	YMCA	次年度4月の活動内容について検討。
2/6	協働取組 第2回 協議会	沖縄県	恩納村ふれあい体験学習センター	今年度の活動内容の成果を共有。また、次年度の取組の方向性や連携内容について意見交換を行った。
2/7	自然体験施設交流会および研修会	長崎県	諏訪池ビジターセンター	「冬季プログラム開発」をテーマに、九州各県の自然体験施設からスタッフが参加。各施設の冬期の取組紹介、EPOからはESD拠点登録の紹介等を行った。
2/8	自然体験施設交流会および研修会	長崎県	諏訪池ビジターセンター	「冬季プログラム開発」をテーマに、九州各県の自然体験施設からスタッフが参加。五感を使ったアクティビティの発表・相互評価等を行った。
2/8	水俣 プログラム検討会&評価会議	熊本県	熊本県環境センター	ESD実践拠点支援事業について評価会議。
2/9	沖縄地域ESD交流会	沖縄県	沖縄県地域環境センター	沖縄県のESD実践者、活動団体による交流会を実施。SDGs、ESDに関する基本的事項の共有や、事例紹介の場を提供した。
2/9	島しょ地域フォーラム打合せ	鹿児島県	奄美猫部	3月に開催予定の島しょ地域フォーラムについて、企画説明と活動紹介の依頼。打合せ
2/12	ESD拠点支援 日南 評価会議	宮崎県	みやざきアートセンター	ESD実践拠点支援事業について評価会議。
2/15	石丸先生打合せ	福岡県	大牟田市立吉野小学校	島しょ地域ESD交流会の企画打合せ。
2/16	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
2/16	加速化事業作業部会	東京都	GEOC	協働取組加速化事業についての成果についての検討及び今後の方針について共有。
2/17	協働ギャザリング	東京都	国連大学	九州からはOGN参加のもと、全国の協働事例について成果共有と意見交換。
2/20	定例会議	福岡県	福岡合同庁舎	地方事務所・EPO参加による情報共有と進捗確認
2/20	第2回企画運営委員会	福岡県	福岡合同庁舎	地方センター業務について各委員へ情報提供。質疑応答の他、今後の方針についての共有を行った。
2/20	第2回運営委員会	福岡県	福岡合同庁舎	EPO業務について各委員へ情報提供。質疑応答の他、今後の方針についての共有を行った。
2/21	島しょ地域フォーラム打合せ	長崎県	鏡瀬ビジターセンター	3月に開催予定の島しょ地域フォーラムについて、企画説明と活動紹介の依頼。打合せ
2/22	挨拶訪問	長崎県	五島自然保護官事務所	3月に開催予定の島しょ地域フォーラムにて、鏡瀬ビジターセンターから活動紹介いただく件を説明。
2/22	佐賀温暖化センターとの連携について打合せ	佐賀県	温暖化防止ネット事務局	低炭素分野の活動づくり、ネットワークづくりについて意見交換。
2/23	温暖化防止ネット記念行事	佐賀県	ロイヤルチェスター佐賀	設立10周年の記念行事への参加。
2/24	ESD北九州 マイプロ九州大会	福岡県	西日本工業大学 小倉キャンパス	マイプロに参加した高校生・大学生による活動報告とワークショップが行われた。
2/24	甑島インタープリター育成講座モニターツアー	鹿児島県	甑島	浜本運営委員が携わる甑島インタープリター養成講座の成果となるモニターツアー。次月の島しょ部ESD交流会参加要望も兼ねる。
2/25	甑島インタープリター育成講座モニターツアー	鹿児島県	甑島	浜本運営委員が携わる甑島インタープリター養成講座の成果となるモニターツアー。次月の島しょ部ESD交流会参加要望も兼ねる。
2/27	ESD事業成果報告会 第3回アドバイザリー会議	東京都	GEOC	各地域での拠点支援事業の取組と成果を報告し、共有を図った。
2/28	メルマガ配信	熊本県	EPO九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
3/1	評価委員会	熊本県	九州地方環境事務所	EPO業務及び、ESD活動支援センター業務についての評価委員会で取組を説明。
3/2	城南高校課題研究発表会	福岡県	城南高校	今年1年間の生徒の研究活動の発表会に参加。
3/3	ESDのシンポジウムへの参加	東京都	国連大学	『SDGsとESD』—ESDの実践と研究の有機的連携にむけて—と題するシンポジウムへ参加し、情報収集を行った（主催：日本ESD学会）。
3/4	関東EPO ESD地域フォーラム	東京都	東京ウィメンズプラザ	ESD地域フォーラムへの出席し、ESDセンター主催による地域フォーラムの企画や活動団体の情報収集を行った。
3/4	熊本市生物多様性ミニシンポジウム	熊本県	熊本市動植物園	熊本市にて生物多様性の保全に取り組む学校、企業・団体、行政が参加し、パネルセッションやワークショップ、それぞれの活動の共有と意見交換に参加。
3/6	グリーンギフト大分企画会議	大分県	東京海上大分支店	2018年度の実施プログラムの検討を行った。
3/9	鹿島市ヒアリング	佐賀県	鹿島市ラムサール条約推進室	次年度のESD活動の連携に向けて、意見交換を行った。
3/12	SDGsの現状と展望セミナー	福岡県	AIMビル	企業関係者や一般市民を対象としたSDGsセミナーに参加。
3/13	岸信さん打合せ	沖縄県	沖縄県公衆衛生協会	島しょ地域ESD交流会の企画打合せ。
3/14	ESD拠点支援事業打合せ	福岡県	北九州まなびとESDステーション	次年度のESD拠点支援事業について、意見交換を行った。

日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容
3/15	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。
3/20	民間活動支援室との意見交換	熊本県	EPO 九州	EPO ネットワークを活用した取組みについて意見交換。
3/24	島しょ地域意見交換会	福岡県	(公財)福岡県中小企業振興センター	九州・沖縄の島しょ地域におけるESD実践者を招いての情報共有と交流の場づくりを行った。
3/27	定例会議	熊本県	地方事務所	地方事務所・EPO 参加による情報共有と進捗確認
3/30	メルマガ配信	熊本県	EPO 九州	各施設等から情報を収集し、登録者へ発信。

【共催・協力等によるセミナー・イベントの開催】					
日付	活動案件	都道府県	活動場所	活動内容	参加者数
4/19	ノーマイカーデーパレード	熊本県	熊本市役所	ノーマイカーデーパレードへの参加	200
4/23	アースウィーク パリ協定に関するセミナー	熊本県	熊本学園大学	アースウィーク実行委員会主催のパリ協定に関するセミナーへの出席、および活動団体によるパネル展示とEPO九州の活動紹介	30
5/21	グリーンギフト大分	大分県	住吉浜リゾートパーク	第1回プログラム運営協力	55
6/3	グリーンギフト宮崎	宮崎県	延岡市北川町	グリーンギフト地球元気プログラム 第1回プログラム(北川)実施	69
6/10	グリーンギフト熊本	熊本県	滝尾小学校	第1回プログラムの運営協力	46
7/2	九州地方ESD拠点支援センター 開設記念パネル展 設営	熊本県	熊本市国際交流会館1Fロビー	九州地方センターの設置周知ならびに地域のESD推進についてアピールするパネル展を実施。	120
7/6~7	第1回連絡会及び現地視察	沖縄県	東村	今年度事業の活動内容や成果目標等について意見交換を行った。 ベチバーによるグリーンベルト植栽の現場訪問およびコーディネーターとの意見交換を行った	延べ30
7/10	温暖化防止活動推進員研修会	熊本県	くまもと温暖化対策センター	EPO九州やESDセンターの取組およびSDGsやESDについて紹介	50
7/12	温暖化防止活動推進員研修会	熊本県	八代地域振興局	EPO九州やESDセンターの取組およびSDGsやESDについて紹介	30
7/16	グリーンギフト大分 第2回プログラム	大分県	ふるさと体験村	第2回プログラム 竹を使った工作や魚つかみ体験等の実施	40
7/18	温暖化防止活動推進員研修会	熊本県	天草地域振興局	EPO九州やESDセンターの取組およびSDGsやESDについて紹介	10
7/19	第1回推進会議	熊本県	熊本県環境センター	ESD拠点支援事業 熊本県環境センター関係の推進会議。	10
7/26	ESD活動支援センター企画運営委員会	熊本県	熊本市国際交流会館	第1回企画運営委員会	15
7/28	第1回協議会	沖縄県	恩納村ふれあい体験学習センター	事業の目的や活動内容、各主体の役割分担等について確認・協議を行った	30
8/2	作業部会	神奈川県	地球環境基金	協働ハンドブック作成に伴う企画検討	15
8/2	地球環境基金連絡会	神奈川県	地球環境基金	助成金説明会や高校生環境活動地方審査会等について協議	32
8/9	国際ボランティアWC	熊本県	国際交流振興事業団	高校生を対象としたESD等についての紹介と意見交換	60
8/15	教員免許更新講習でのセンター紹介	沖縄県	八重山高校	離島勤務の教員を対象とした免許更新講習。ESDについて大島先生による講義。ESDセンター等の紹介を行った。	15
8/22	ユネスコスクール 専門家意見交換会	福岡県	オオムタガーデン	ESDに取組む教育委員会関係者や九州でのESD専門家との意見交換	30
8/23	地域ESD学びあいフォーラム in 大牟田	福岡県	オオムタガーデン	ESD拠点支援事業の担当者による事例発表など	50
8/23	ESDユネスコスクール研修会 in 大牟田	福岡県	オオムタガーデン	ESD推進に向けた教育委員会による研修会。ESDセンターが共催。	300
8/29	長崎県との協働事業ESD実践校第1回研修会	長崎県	上対馬総合センター	学校の先生を対象としたESD教育の取組や今後の活動計画等の共有	23
9/1	KEEM実行委員会	熊本県	火の国ハイツ	2018年2月に開催するプログラムの企画検討。	10
9/10	グリーンギフト熊本 第2回プログラム	熊本県	リバーパーク鯨の学校	第2回プログラム Eポート体験や絶滅危惧種や外来水草の観察	28
9/13	福岡県推進員研修	福岡県	福岡県中小企業支援センター	福岡県内の推進員を対象とした研修。SDGの考え方やESDセンターについて紹介。	50
9/30	アカデミア シンポジウム	熊本県	環境アカデミア	低炭素社会づくりに向けた都市政策やESDをテーマとしたシンポジウムに登壇。	80
10/18	グリーンギフト年間ふりかえり会議	東京都	東京海上日動火災保険(株)本店	全国で展開するグリーンギフトについて、各地域の実施団体や各EPO担当者との情報共有	約70
11/8	地球環境基金助成金説明会	宮崎県	みやざきNPOセンター・協働支援センター	平成30年度の助成プログラムについての説明と意見交換。	18

11/11	人権協議会 ロアッソ熊本啓発（公式試合）	熊本県	えがお健康スタジアム	人権啓発の活動協力。同時に温暖化防止に関する啓発が行われており、意見交換。	30
11/25	グリーンギフト宮崎 第1回プログラム	宮崎県	しゃくなげの森等	都城市・三股町を移動しながら水質調査と参加者交流。	58
1/13	大牟田市教育委員会 ESD 子どもサミット 参加 後援依頼	福岡県	大牟田市文化会館	九州地方 ESD 活動支援センターとして後援を行った大牟田市教育委員会主催「ユネスコスクール子どもサミット」に参加。	540
2/3	KEEM熊本大会	熊本県	火の国ハイツ	益城、西原村の2か所に分かれ事前エクスカーションを実施。午後より熊本市内を会場に「自然災害と生きるための環境教育」をテーマに情報提供、意見交換を実施した。	34
2/4	KEEM熊本大会	熊本県	火の国ハイツ	前日の意見交換の内容を基に、ワークショップを実施。	34
2/6	SDGs研修会	熊本県	熊本市役所	熊本市幹部職員を対象に、法政大学川久保准教授を講師としてSDGs研修会を実施。講演後、関係課との意見交換。	130
3/8	くまもとSDGsセミナー	熊本県	熊本市市民会館会議室	熊本市職員を対象としたSDGs研修のフォローアップ。一般参加者にも対象を広げ、話題提供とワークショップを実施。	32

② EPO九州の開所状況

EPO九州の維持管理には、スタッフ体制を整備し、各業務を分担、維持管理に努める。なお、スタッフは積極的に所外での連携促進・協働取組への関与、柔軟な相談対応に努めることとし、窓口（開所）業務については市民への情報提供等において差し障りの無い範囲において執行（必要に応じて臨時閉所対応）する。

【開所状況】 ※第1～3四半期報告書の件数から一部修正済み

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	開所日数	12	19	20	19	22	21	19	20	19	18	19	22	230
来所者数 (人)	相談	3	0	4	3	2	1	2	2	6	4	4	2	33
	情報収集・受取	6	0	3	5	5	1	1	5	7	0	2	1	36
	行事参加	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他	1	0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	6
	合計	10	0	9	8	9	2	4	7	13	4	7	31	77
パンフレット 等受付 (種類)	ともに生きる	1	4	2	2	5	2	1	3	1	3	7	2	33
	自然・生命	2	8	2	1	5	7	4	1	2	2	6	3	43
	ごみ・資源	2	1	2	1	1	3	2	1	1	1	1	1	17
	エネルギー・地球温暖化	0	2	3	2	4	0	1	2	0	0	1	3	18
	ESD・環境教育	3	1	2	3	0	3	1	2	1	0	2	4	22
	助成金・団体支援	8	0	1	1	6	2	1	1	1	0	1	2	24
	全国のEPO	4	0	0	1	1	0	2	1	0	0	1	2	12
	行政	0	1	0	1	1	1	0	2	1	0	1	3	11
	その他	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	合計	20	18	13	13	23	19	12	13	7	6	20	20	184